

徳島県立博物館年報

第6号 (平成8年度)

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum
No.6 (for the fiscal year of 1997)

目 次

I 展覧事業

1. 常設展 2
2. 企画展 2
3. 木造船の屋外展示 7
4. 常設展の更新に向けての取り組み 7
5. 展示関係出版物 9

II 調査研究事業

1. 分野別（個別）調査研究 10
2. 課題調査 12
3. 文部省科学研究費補助金による研究 12
4. 他機関との共同研究 12
5. 研究成果の公表 13
6. 研究会・学会等の開催 15

III 資料収集保存事業

1. 購入資料 16
2. 寄贈資料 16
3. 寄託資料 17
4. 資料の貸し出し 17
5. 特筆すべき資料の受入と整理 18
6. 館蔵資料数 18
7. 資料収集委員会 18
8. 文献資料の収集 19
9. 資料データベースシステム 19
10. 資料の燻蒸 21

IV 普及教育事業

1. 普及行事 22
2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等 24
3. 博物館実習生の受け入れ 24
4. 博物館の広報活動 24
5. 学校教育との連携 25
6. 博物館友の会 25
7. 普及教育関係出版物 26

V 管理運営

1. 組織・職員 28
2. 予算 29
3. 博物館協議会 29
4. 四国地区博物館協議会及び日本博物館
協会四国支部 30
5. 徳島県博物館協議会 30
6. 各種委員・非常勤講師等の受諾 30
7. 視察等博物館関係来訪者 31
8. 観覧者 31

I 展覧事業

博物館での展示は、常設展と企画展から成る。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるように、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行うが、基本的な展示の構成は当分の間変わらない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3～4回行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりや資料の展示など様々なテーマをおりませ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

1. 常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

総合展示：「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるように、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1. 日本列島と四国のおいたち
2. 狩り人たちの足跡
3. ムラからクニへ
4. 古代・中世の阿波
5. 藩政のもとで
6. 近代の徳島
7. 徳島の自然とくらし

部門展示：総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的、分類的な展示を行っている。

(人文) 焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料 など

(自然) いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ など

ラプラタ記念ホールの展示：アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の哺乳動物化石を展示している。

(2) 部門展示の展示替え

部門展示(人文)では、テーマをきめて随時展示替えをしている。平成8年度は、以下の展示を行った。

●庸八焼

阿波の焼き物の展示の一環として、館蔵の庸八焼の代表作品を展示した。これは焼物収集家の故・豊田進氏の旧蔵品である。

●吉野川の川舟

吉野川で古くから鮎漁などに使われてきた「カンドリ舟」の新造舟の寄贈を受けたのを機会に、現在ほとんど見られなくなった吉野川の川舟を紹介した。

●農村歌舞伎資料

農村歌舞伎は、明治から大正を中心に全国で上演されていた。明治20年頃から昭和20年代頃まで、県下を中心に富山・岐阜まで巡回した小松島の武蔵野一座が使用していた芝居衣裳・道具類の展示を行った。

2. 企画展

平成8年度は、次の3回の企画展を行った。

(1) 第1回企画展「銅鐸の美」

銅鐸は、弥生時代の祭りに使われたカネだといわれ

平成8年度 第1回企画展

銅鐸の美

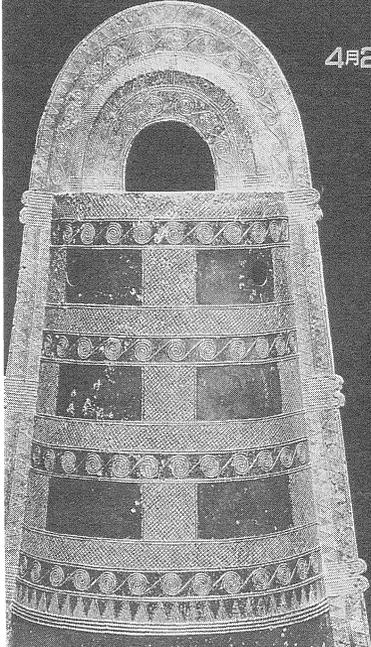
4月2日火～5月12日日

開館時間：午前9時30分～午後5時
休館日：月曜日(祝日の場合はその翌日)
観覧料：一般 400円(300円)
高校・大学生 200円(100円)
小・中学生 100円(50円)
17歳以下及び65歳以上の観覧料無料

記念講演会
「銅鐸の絵と土器の絵」
—銅鐸絵の謎に迫る—
佐野 昌 氏 徳島大学名誉教授(考古学)
◎4月2日(日) 午後1時～2時30分
◎徳島県立21世紀館 イベントホール
◎入場無料

【主催】 徳島県立博物館
【協賛】 徳島県
【後援】 文化庁
【協力】 徳島県立文化財団
【特別協力】 徳島県立歴史博物館

文化の府 徳島県立博物館
〒770 徳島市八幡町1-1
TEL.0875-84-9838



ている。これまで、西日本を中心に約430個発見されているが、徳島県内からはその約1割の45個ほど発見されており、徳島は銅鐸の宝庫とさえいわれている。

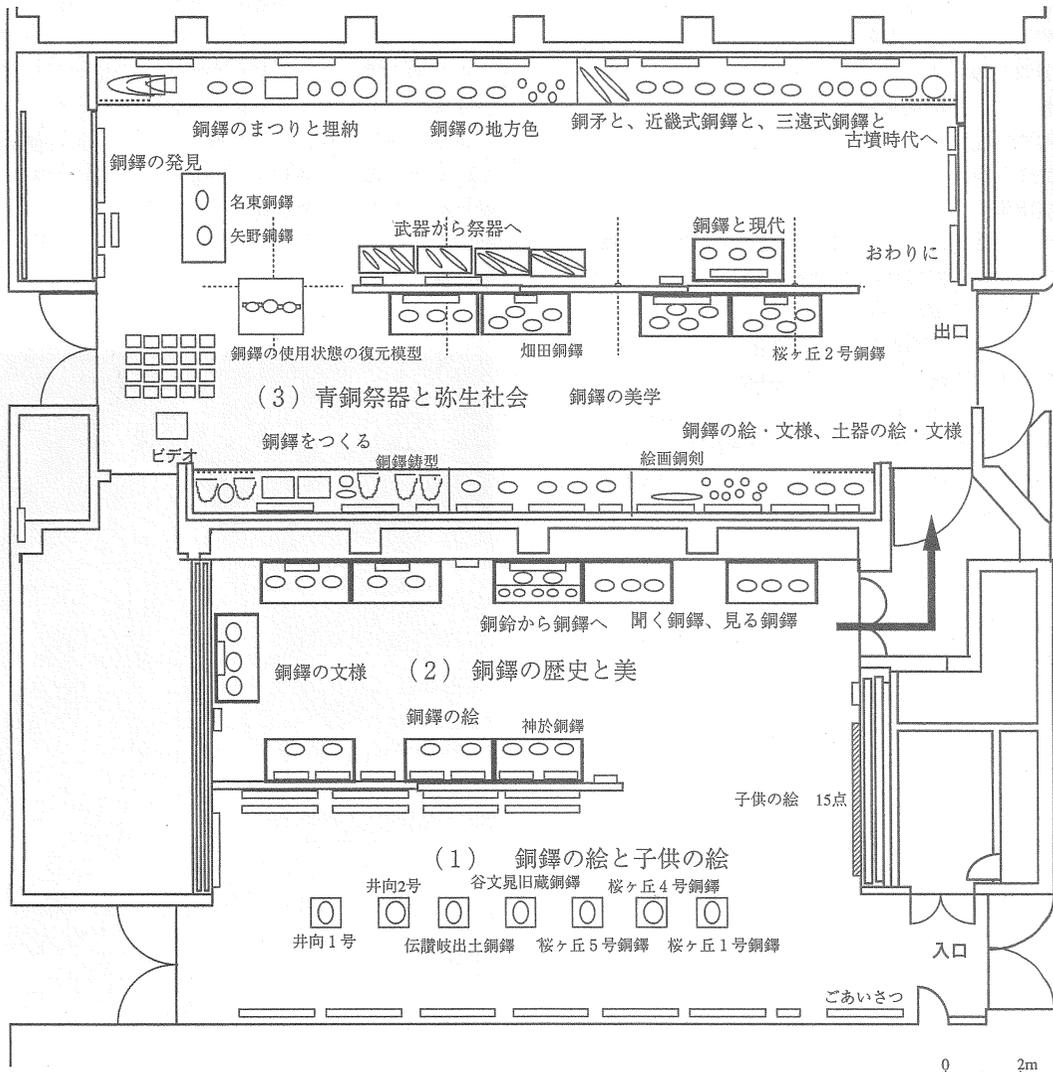
銅鐸ほど謎の多いものはない。どこでつくれ、どのように使われ、なぜ埋められたのか。銅鐸に描かれたシカやトンボは何を意味するのか。

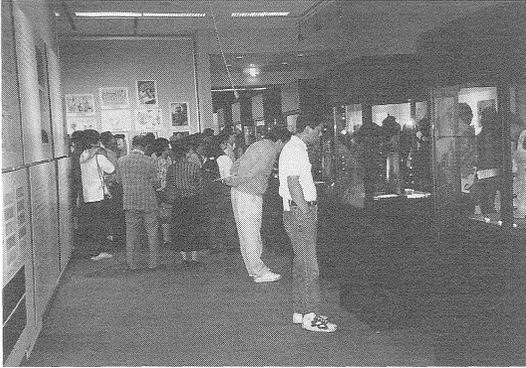
この企画展は、国立歴史民俗博物館が企画し、国立歴史民俗博物館を皮切りに5会場を巡回したもので、銅鐸の製作や移り変わり、銅鐸絵画の意味、銅鐸のまつりや埋納など、銅鐸に秘められた謎を多面的に紹介したものである。

- 期間 平成8年4月2日(火)～5月12日(日)
- 会場 博物館企画展示室・21世紀館多目的活動室

●展示内容

- ①銅鐸の絵・子供の絵
 - ・銅鐸の絵
 - ・子供の絵
 - ・世界の先史・現代の絵
- ②銅鐸の歴史・銅鐸の美
 - ・銅鐸の絵
 - ・銅鐸の文様
 - ・銅鈴から銅鐸へ
 - ・聞く銅鐸、見る銅鐸
 - ・銅鐸の絵・文様、土器の絵・文様
 - ・銅鐸の美学
- ③青銅祭器と弥生社会





企画展「銅鐸の美」の会場風景



企画展「銅鐸の美」展示解説（講師は佐原 真氏）

- ・銅鐸の製作
- ・殺す武器、見る武器
- ・銅鐸のまつりと埋納
- ・銅鐸の地方色
- ・銅矛と、近畿式銅鐸と、三遠式銅鐸と
- ・古墳時代へ
- ・銅鐸と現代

●資料借用先

- 神戸市立博物館（国宝 兵庫県桜ヶ丘2・4号銅鐸）
- 文化庁（香川県我拝師山銅鐸、重文 福岡県吉武高木遺跡細形銅剣・銅戈・銅矛）
- 京都大学文学部博物館（大阪府神於銅鐸、重文 京都府椿井大塚山古墳三角縁神獣鏡）
- 国立歴史民俗博物館（徳島県畑田銅鐸、兵庫県古津路遺跡中細型銅剣、大分県古迫遺跡中広型銅矛）
- 岡山県古代吉備文化財センター（岡山県高塚銅鐸）
- 東京国立博物館（和歌山県晩稲銅鐸）

●観覧料 一般400円／高校・大学生200円／小・中学生100円

●期間中の観覧者数 6,000人

●記念講演会 4月28日（日）

講師：佐原 真氏（国立歴史民俗博物館副館長）
 演題：銅鐸の絵と子どもの絵—銅鐸絵画の謎に迫る—
 会場：21世紀館イベントホール
 入場者：246人

(2) 第2回企画展「鉱物の世界」

鉱物は、色の美しさや形の見事さなどで、自然界のおもしろさや不思議さを最も強く感じさせるもののひとつである。また、人間は古代から生産や生活の場で鉱物を原材料として利用していた。現代でも、さまざまな資源として利用されている。

鉱物といえば、地味であるとか難しいという印象をしばしば持たれがちであるが、この企画展では、きれ

いな標本・典型的な標本だけでなく、いろいろな標本を用いてさまざまな角度から鉱物を紹介することにより、少しでも鉱物を身近に感じてもらうよう心がけた。また、結晶構造と化学組成の話題には極力ふれずに、肉眼スケールでわかる話題を中心に構成した。

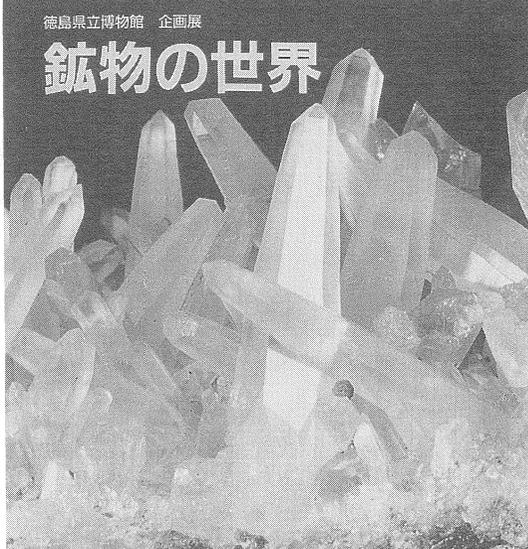
また、8月7日より、中国雲南省政府から徳島雲南友好協会を通じて博物館に寄贈された雲南省産岩石・鉱物標本の一部を追加展示した。

●期間 平成8年7月19日（金）～9月1日（日）

●会場 博物館企画展示室

徳島県立博物館 企画展

鉱物の世界

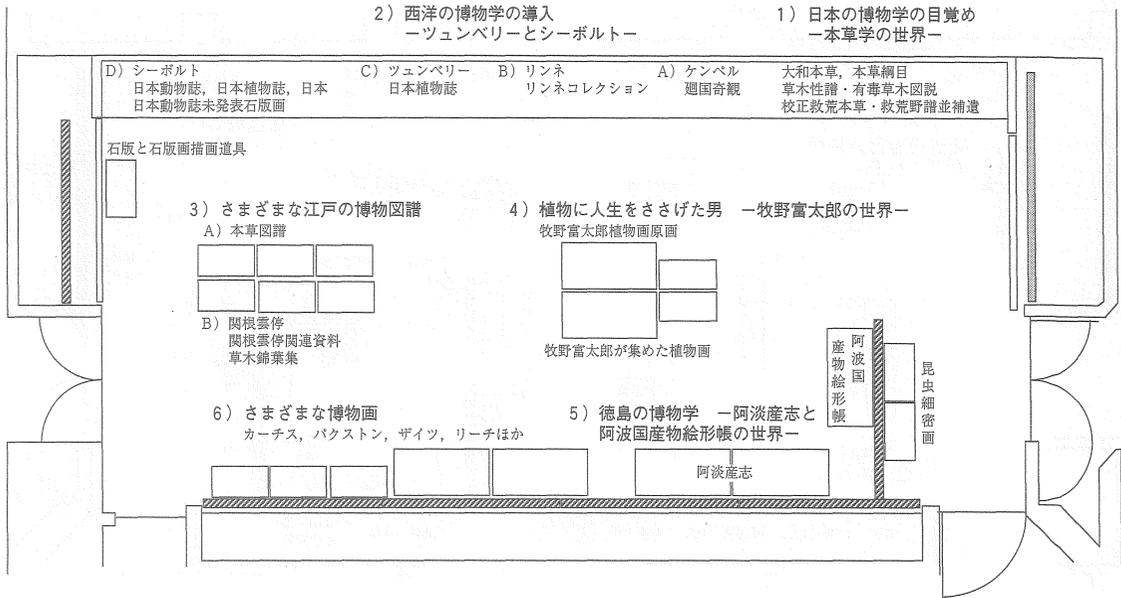


1996年
7月19日金 9月1日日
（月曜日休館）

会場：博物館1階 企画展示室
 開館時間：午前9時30分～午後5時
 観覧料：小・中学生 50円（40円）
 高・大学生 100円（80円）
 一般 200円（160円）
（19歳未満は100円未満）

21世紀館 目でみる博物館
1996年7月19日～9月1日

徳島県立博物館 TEL0876-42-5000
〒770 徳島市三木町1-1 文化庁指定国史跡



- ② 西洋の博物学の導入—ツェンペリーとシーボルト—
- ③ さまざまな江戸の博物図譜
- ④ 植物に人生をささげた男—牧野富太郎の世界—
- ⑤ 徳島の博物学—阿淡産志と阿波産物帳の世界—
- ⑥ さまざまな博物画

●資料借用先

リンネコレクション (千葉県立中央博物館)
阿淡産志 (東京国立博物館)

徳島県立博物館企画展

目でみる博物学

—華麗なる博物画の世界—

1996年
10月18日(金)~12月1日(日)

月曜日休館。ただし、11月4日(月)は閉館、翌11月5日(火)休館。

会場 徳島県立博物館1階 企画展示室

開館時間 午前9時30分~午後5時

観覧料 小・中学生 50円 (40円)
高・大学生 100円 (80円)
一般 200円 (160円)

() 内は20名以上の団体料金

企画展解説行事 展示解説

日時 1996年11月9日(日)
午後2時~3時

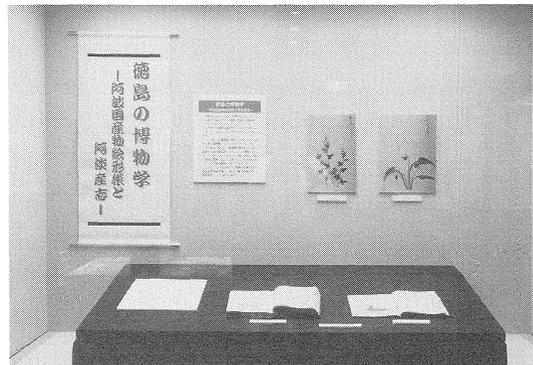
会場 徳島県立博物館1階企画展示室

講師 小川 基 (徳島大学准教授)
*企画展観覧料が9割です。

文化の森総合公園
徳島県立博物館
〒770 徳島市八万町向香山
TEL 0986-68-3636



企画展「目でみる博物学」の会場風景



阿淡産志の展示コーナー (企画展「目でみる博物学」)

大和本草他本草関係資料（徳島県立文書館）
 関根雲停関連資料・牧野富太郎植物画原画（高知県立牧野植物園）
 日本動物誌未発表石版画（北九州市立自然史博物館）
 石版画関連資料（個人）
 昆虫細密画（個人）
 阿波国産物絵形帳（個人）

●主な展示資料（上記以外）

重訂本草綱目啓蒙
 ケンペル廻国奇観
 チュンペルグ日本植物誌
 シーボルト日本動物誌
 カーチスボタニカルマガジン
 フッカー外来植物図鑑
 フック顕微鏡図譜
 パクストン植物雑誌
 ドノバン博物学の宝庫

●観覧料 一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●期間中の観覧者数 2,738人

3. 木造船の屋外展示

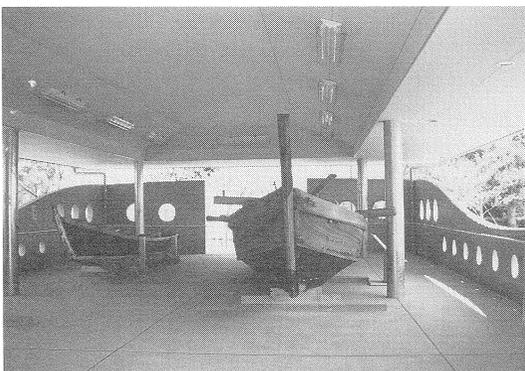
博物館で収集した大型の木造船は、これまで適当な展示施設がないことから倉庫で保管してきた。しかし、8年度に都市計画課の協力で文化の森総合公園内の知識の森に新たに屋外展示施設が建設され、そこに次の2隻を展示し、3月11日から一般公開した。

①任勢船（まかせぶね）

長さ10.8m×幅2.54m×高さ1.85m
 昭和61年、阿南市中林町浜 八郎氏寄贈

②カンコ船（長さ7.0m×幅1.1m×高さ1.2m）

昭和63年、鳴門市瀬戸町の上村昭一氏寄贈



木造船の屋外展示風景（知識の森）

なお、9年度には、平成8年に三好郡三野町の原久夫氏から製作・寄贈していただいた吉野川のカンドリ舟（長さ6.3m×幅1.32m×高さ0.77m）を加えて展示することになっている。

4. 常設展の更新に向けての取り組み

当館は平成2年11月3日に開館し、現在（平成9年3月末）、開館8年目に入っている。この間、54万余人の常設展観覧者を迎え、徳島県の中核博物館としての役割を果たしてきた。しかしながら、観覧者が年々減少傾向にあることにもみられるように、「いつ行っても変わらない展示」とみられることは否めず、常設展の全体的な新鮮さが保てなくなってきたのが実状である。

そこで、開館10周年を機に、これまでの調査研究・資料収集活動の成果、最近の博物館の展示傾向等をふまえ、総合博物館としての性格をより鮮明に打ち出す方向で、全面的な常設展の更新（リニューアル）を行うという方針のもと、平成7年度から館内での討議や展示更新を行った博物館等の視察、博物館利用者へのアンケート調査等を行い、現行常設展の現状と課題の分析、目指すべき展示のあり方を模索してきた。これまでの検討内容の概要を以下に記しておくことにしたい。

(1) 常設展の更新の必要性

●実施設計からの年数の経過

現在の常設展は平成2年11月の一般公開ではあるが、内容は昭和59～61年度の資料収集展示委員会における討議に基づき、61年度に実施設計が行われたもので、基本的には10年前の学問水準に基づく展示である。当時は学芸員が3、4名しかおらず、限られた主体的力量でつくられた展示といえる。

●資料収集委員会の提言

「徳島県立博物館資料収集展示委員会のまとめと提言」（平成2年5月）では、「博物館の展示は、常設展示といえども一度できたらおしまいというものではなく、・・・（中略）、少なくとも10年をめぐり、展示テーマの組み替えを伴う大幅な展示更新を行うよう要望する」と述べられている。

●開館以来の調査研究・資料収集活動の蓄積

開館以来、14名の学芸スタッフによる調査研究活動や、種々の企画展の取り組み等により、県下の自然・歴史・文化に関する知見も増し、収蔵資料も大幅に増えた（平成2年12月末71,262点、8年度末324,045点）。

これらの成果を常設展にも盛り込むことが望まれる。

●最近の全国の博物館における展示動向

兵庫県立人と自然の博物館や滋賀県立琵琶湖博物館に代表される最近の県立クラスの新設館では、近年の環境問題への人々の関心の高まりと積極的に向き合い、「自然と人間との関係」を展示で取り上げるようになってきた。また、「参加・体験型展示」の名のもとに、動く展示やマルチメディアの導入をはかったり、アミューズメント性を追求する館も増えてきている。

●入館者（観覧者）の動向

博物館の常設展観覧者は、平成9年3月末で累計548,648人となった。しかしながら、平成3年度の年間137,117人をピークに年々減少傾向にあり、平成8年度は57,121人まで落ち込んでいる。これは、部分的な手直しやPRの努力にもかかわらず、常設展が全体的な新鮮さを保てなくなっている結果であると考えられる。

●アンケート調査における意見

博物館を頻繁に利用している友の会会員を対象としたアンケートを中間集計したところ、8割以上（回収数72のうち58）の人が常設展を見直すべきだとしている。その理由として次のような意見があげられている。

- 固定化していてかわりばえがしない。
- 身近な地域の特色がわからない。総花的でポイントがつかめない。
- 県内博物館と機能を分化し、それらとの連携の中で展示を考えるべきである。
- 友の会や一般県民が連携できる展示スペースづくりを望む。

●社会教育審議会答申（平成2年6月）及び生涯学習審議会答申（平成8年4月）

博物館に期待される諸機能の強化、時代に対応する運営等が求められている。

(2) 常設展の現状と問題点

●現行の常設展の概要（2ページの「常設展の構成」参照）

●通史展示が主体の展示の制約

現行の常設展は、総合展示、中でも通史展示の部分が全体の3分の2を占めている。そのため、徳島県下の歴史や政治・経済・文化等について概観する点では一定の効果があるものの、人間の生活の場ないしは背景としての自然環境との関係や、他地域との比較などに踏み込むことがむずかしく、展示の発展性に欠ける結果となっている。「郷土に根ざし世界に広がる博物館—徳島の自然、歴史、文化の資料を総合的に展示し、全国的・世界的なかかわりについても理解できる施

設」という当館の基本理念からはほど遠いといわざるをえない。

●総合博物館としての総合性の不足

総合展示「徳島の自然と暮らし」は、計画では県下の自然と伝統的な生活との相互の関わりあいを総合的に展示する予定であった。しかし、準備段階での力量不足（学芸員の数や調査資料の蓄積等の不足）により、結局は生物標本と民俗資料を並列的に展示するに留まっている。県立博物館としては、本来こうした身近な環境と生活を取り上げた展示にもっとスペースをさき、内容的にも真の総合展示をめざすべきである。

●特色に欠ける展示

通史主体の展示はどうしても網羅的・均一的になりがちであり、特色に欠ける。ラプラタ記念ホールのような全国的に誇れる展示資料もあるものの、その性格づけはあいまいである。県下でも市町村立の専門博物館が次々に誕生する状況の中で、当館の特色をもっと打ち出す必要があると思われる。

(3) 常設展更新の基本方向

●総合博物館としての総合性の追求

「人文科学・自然科学の両者が有機的に結びついた総合博物館」という当館の基本的性格を具現化するためには、常設展においても総合性の追求、すなわち「自然と人間生活の相互関係」を追求していく展示をめざし、それを当館の特色にしていく必要がある。そして、現在の複雑な環境問題について、県民がより広い視野から考える必要性をアピールするとともに、いっしょに考えていくための足場を提供していかなければならない。

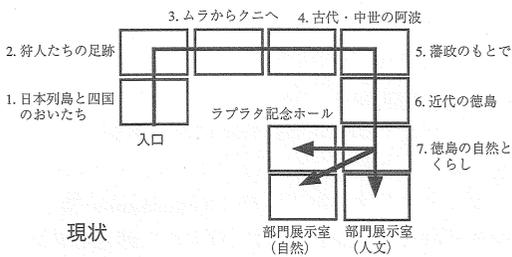
●通史展示主体から空間別総合展示主体へ

具体的には、通史展示主体を改め、山・里・川・海・まちなど、人間の生活が営まれてきた空間を大テーマにとり、それぞれの場における生活文化（生産、技術、居住、信仰など）とそれをとりまく自然環境との関わりを追究する展示を主体としたい。そして、それぞれの展示の中で、他地域の自然や生活文化との比較といった発展性も追求していきたい。

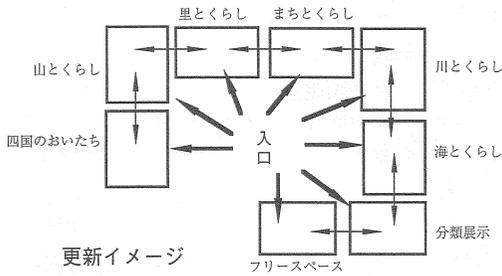
あわせて、「生物の多様性」を中心テーマとする自然史分類展示、美術資料や新収蔵資料の紹介をはじめ多分野で利用できる小規模なフリー展示スペースを設け、総合的な展示を補完するにしたい。

●参加型展示の追求

一般に「参加型展示」といえば、動く展示や操作する展示の導入、マルチメディアの活用等が想定される。しかし、それに留まらず、触覚等五感に働きかけるような展示や疑問投げかけ型の展示などを通じて、「博



現状



更新イメージ

博物館の展示を見て自分の生活の場に興味や疑問を持ち、そしていっしょに調べる」機会を与え、その結果が展示室に持ち込めるような参加型展示をめざしたい。

●新しい展示手法の導入

展示づくりや解説には、マルチメディアの活用はもちろん、新しい展示手法の積極的導入を図る。また、文化の森システムとの連携により、映像資料の展示室への取り込みも検討したい。あわせて、現在等閑視されている外国人や「障害者」への配慮も忘れてはならない。

●展示替えしやすい平面配置・構造の展示

最近の博物館の展示は（当館の常設展も含めて）、まだ導線誘導型が主流である。しかし、これはテーマが固定するため、部分的な手直し以外には展示替えがしにくく、展示更新をするには全面的展示替えにならざるを得ないというデメリットがある。

新しい展示では、大テーマごとにある程度ブロックを区切り、入館者の興味に応じて選択導線がとれるようにしたい。また、そうすることにより、ブロックごとの展示替えが可能になる。このように、将来の展示替えがしやすい平面配置・構造にも十分配慮したい。

●平成8年度視察館

- 神奈川県立生命の星・地球博物館
- 平塚市博物館
- 長野県立歴史館
- 名古屋市博物館
- 滋賀県立琵琶湖博物館

- 兵庫県立歴史博物館
- 兵庫県立人と自然の博物館
- 奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
- 三瓶自然館

5. 展示関係出版物

■企画展図録・解説書

●第1回企画展図録「銅鐸の美」

毎日新聞社1995年11月1日発行の図録「銅鐸の美」（A4判264ページ、全ページカラー）を700部買い取って、寄贈・交換用として使用した。

●第2回企画展解説書「鉱物の世界」

1996年7月19日発行、A4判24ページ（全ページカラー）、700部+友の会増刷分300部

●第3回企画展解説書「目でみる博物学—華麗なる博物画の世界—」

1996年10月18日発行、A4判24ページ（全ページカラー）、700部+友の会増刷分300部

■英文展示解説書

1996年4月1日発行、B5判24ページ、700部

現行の常設展では、中テーマ解説パネルのタイトルに英文タイトルが併記してあるほかは、外国語による解説はない。それを補うため、英文の展示解説書をつくった。受付で希望者に配布している。英訳に当たっては徳島市国際交流協会の協力をいただいた。

内容は、大・中テーマの英文概説および小テーマタイトルの英文表記をまとめたもので、ところどころに写真と図が挿入されている。

Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられてこそ、最新の情報を盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、複数の学芸員グループで、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、翌々年以降に予定されている企画展のための事前資料調査などがある。現在、館長以外に14名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。また、普及係の2名(教員)もそれぞれの専門を生かした調査研究を行っている。

1. 分野別(個別)調査研究

大原賢二(動物・昆虫)

①日本産ハナアブ科の分類学的研究

国立科学博物館所蔵の日本産ハナアブ科のコレクションの調査を行った。

②日本産シュモクバエ科の生活史の調査

日本産のシュモクバエ科の生活史の調査を行った。沖縄県の八重山地方にしか記録はなく、その行動もまったく判明していない。産卵行動や交尾行動などの調査を行った。

佐藤陽一(動物・脊椎動物)

①県内の淡水魚類相調査

県下の淡水魚類相調査の一環として、吉野川水系の鮎喰川・貞光川・下流域南岸溜池、園瀬川、神田瀬川水系清浄ヶ池、那賀川水系中山川、打樋川、椿川、日和佐川などで計21日間の調査を行った。

なお、これらの調査は県版レッドデータブック策定に関わる調査を兼ねたものである。

②川魚漁に用いる川舟の調査

9年度開催予定の企画展「吉野川の自然」にむけて、吉野川および那賀川、相模川(神奈川県)、長良川(岐阜県)、江の川(広島県)、松田川・四万十

川・仁淀川(高知県)などで、計14日間の調査を行った。

田辺 力(動物・無脊椎動物)

①県産無脊椎動物相の調査

鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を行った。

②日本産ヤスデ類の分類学的研究

タカクワヤスデ属ならびにXystodesmini 族の分類学的再検討を行い報告した(篠原圭三郎氏と共同)。また、ババヤスデ科の新属 *Sinoria* を設立し、新種 *S. tianmu*, *Riukiarina chinensis* を記載した(獨協医科大学石井 清氏らと共同)。

小川 誠(植物)

①日和佐町の植物相調査

平成8年度阿波学会の調査の一環として、日和佐町の植物相調査を行った(赤澤時之、木村晴夫氏らと共同)。

②博物館の情報提供におけるインターネットの利用

資料の収集保存作業を通じて蓄積された情報と植物写真を組み合わせて、より簡単に効率的な情報提供を行う方法について検討した。その成果の一部は <http://www.asahi-net.or.jp/~HI1M-OGW/tokuhaku.html> で公開している。

③植物の種分化の研究

植物の種分化を調べるためにヨモギ属、キンポウゲ属、スミレ属の染色体の観察を行った。

鎌田磨人(植物)

①平成8年度阿波学会の調査の一環として、日和佐町の植物群落調査を行った(徳島大学石井愷義氏、森本康滋氏らと共同)。

②上勝町の棚田およびそこにおける生物相の保全を目的とした研究を開始した。棚田の維持管理の方法等についての聞き取り調査を行うとともに、水系の概要を調査した。また、資料の所在調査を行った。(徳島大学上月康則氏らと共同)。

③吉野川における流域の環境変化と河川内植生との相互作用について考察するために、州上の植生の分布、構造等を調査した(徳島大学岡部健士氏らと共同)。

両角芳郎(地学)

①日本の上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地の和泉層群から産出するディディモセラ類アンモナイトの分類学的検討、和泉山脈の和泉層群産 *Gaudryceras izumiense* の再検討を行った。

②勝浦川流域の下部白亜系産化石に関する研究

羽ノ浦層から産出するアンモナイト類の分類学的検討を行った。

③中央構造線の断層露頭・断層変位地形の調査

阿波町から上板町にかけての阿讃山地南麓で調査を行った。

中尾賢一（地学）

- ①鮮新世～更新世の浅海棲貝化石と堆積相の調査
鹿兒島県・長崎県・高知県で化石の産状と堆積相の観察を行い、それぞれの群集の分布域を調べた。
- ②鳴門海峡産ナウマンゾウ化石の研究
当館所蔵のナウマンゾウ化石のうち、臼歯以外の標本について計測した（当館亀井館長と共同）。
- ③日和佐町の地質の調査
平成8年度阿波学会の調査の一環として、日和佐町の地質を調査した（徳島大学石田啓祐氏らと共同）。

天羽利夫（考古）

- ①対馬の積石塚調査
長崎県対馬に分布する積石塚を調査し、徳島県内に分布する積石塚との比較研究を行った。
- ②前期古墳の埋葬頭位に関する研究
主として西日本における前期古墳の埋葬頭位について調査し、近畿地方の北枕優先とは異なった東西方向の埋葬が主流であったことを確認した。

③漁業関連遺跡の調査

県内に分布する漁業関連遺跡の調査を行い、漁具等の資料を集成した。この調査の中で鳴門市亀浦遺跡を発見した。

高島芳弘（考古）

- ①縄文時代における石鏃の形態の変異について
鮎川遺跡採集の石鏃の図化を行い、基礎資料の蓄積を行った。
- ②製塩土器の調査
鳴門市亀浦遺跡出土の製塩土器について、備讃瀬戸、淡路・紀淡海峡のものと比較検討を行った（当館天羽副館長と共同）。

魚島純一（保存科学・考古）

- ①銅鐸の構造調査・材質調査
企画展「銅鐸の美」に出品された資料のうち、所蔵者の承諾を得た資料のX線透過撮影による構造調査および蛍光X線分析による材質調査を行った。
- ②出土赤色顔料の同定
県内から出土した赤色顔料関係遺物の蛍光X線分析による同定を行った。
- ③外部依頼による調査
上勝町教育委員会の依頼を受けて赤外線テレビカメラによる棟札の判読を行った。また、愛媛県埋蔵文化財調査センター、寒川町教育委員会などの依頼を受けて、出土文化財等のX線透過撮影による構造調査、蛍光X線分析による材質調査などを行った。

山川浩實（歴史）

①模擬原爆の被弾地調査

模擬原爆・パンプキン爆弾は、最近、アメリカ軍資料から徳島に投下されたことが判明した。アメリカ軍資料に基づき、その被弾地の確認調査を行った。

②百姓一揆に関する調査研究

阿波国の百姓一揆のうち、19世紀初頭の享和逃散事件について、海部郡浅川村（伊勢田）農民の土佐への逃散について聞き取り調査を行い、文献・史料との比較検討を行った。あわせて史料の収集を行った。

③戦後復興に関する史料調査

1946～1949年ごろの農村地域の復興について解明するため、前川農事実行組に関する戦後復興史料を調査した。

長谷川賢二（歴史）

①中世修験道史の研究

中世における山伏集団の地域的展開について、現時点での見通しをまとめ、1996年度鳴門史学会大会で報告した。また、県内外の修験道資料の調査や収集も行った。

②被差別部落の生活文化史の調査

徳島県教育委員会による同和地区民俗文化史調査に参加し、聞き取り調査（小松島市）や関連史料の検討を行った。

③地域社会における歴史意識・伝統意識の研究

古代阿波忌部伝承の拡散と定着を事例とする考察の前提として、由緒・史跡顕彰に関する研究文献の収集・検討を行った。

庄武憲子（民俗）

- ①平成8年度阿波学会の調査の一環として、日和佐町の漁・猟師につたわる言い伝えについての調査を行った（生光学園東田墨美氏と共同）。
- ②芋に関する習俗についての研究

四国山中で儀礼食として重要視される栽培山芋「カシュウイモ」について、その系譜をたどる事を目的に九州・沖縄地方での聞き取り調査を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①舞楽螺鈿蒔絵硯箱の研究

蜂須賀家旧蔵の同硯箱について、作者の伝承（伝光悦作）にかかわる史料を調査した。

②蒔絵師飯塚桃葉の研究

飯塚桃葉に関する史料を分析し、蜂須賀家と狩野典信、桃葉の関係について調査した。

③徳島藩の御用絵師に関する調査研究

9年度開催予定の企画展の準備の一環として、藩の御用絵師に関する作品の所在調査、粉本類の分析などを行った。

2. 課題調査

平成8年度は、次の3つの課題調査を行った。

(1) 黒潮の道—奄美地方の自然と民俗

前年度の沖縄地方に引き続き、黒潮に関係する調査として奄美大島および周辺島嶼の自然史、民俗などの調査を行った。また、一部は沖縄県の八重山地方にも足をのびして追加調査を行った。

●調査メンバー

亀井節夫（館長・地学）、大原賢二（昆虫）、小川誠（植物）、中尾賢一（地学）、庄武憲子（民俗）、長谷川賢二（歴史）、魚島純一（考古）

●調査日程

- 第1回：8月28日～9月5日、奄美大島（庄武）
- 第2回：12月14日～12月20日、奄美大島・喜界島・徳之島（小川）
- 第3回：2月11日～2月18日、奄美大島・喜界島・徳之島（中尾）
- 第4回：2月14日～2月20日、奄美大島・喜界島・徳之島（亀井）
- 第5回：2月24日～3月1日、奄美大島・種子島・屋久島（庄武）
- 第6回：3月7日～3月14日、奄美大島・徳之島・種子島（魚島・長谷川）
- 第7回：3月22日～3月26日、石垣島（大原）

●調査内容

- ・各島の動植物相の調査・収集、分布調査
- ・奄美大島・喜界島の化石調査
- ・海岸の漂着物の調査
- ・奄美大島の祭りの調査
- ・奄美大島・徳之島・種子島の遺跡調査

(2) 水辺の生活と環境

徳島県内には多様な水辺環境が存在している。こうした水辺の環境における人々のくらしと、それを支えてきた環境とその変遷を把握することを目的に、那賀川流域中心に調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：鎌田磨人（植物）、長谷川賢二（歴史）、庄武憲子（民俗）
館外調査者：吉成直樹（高知大学教授）、上月康則（徳島大学工学部講師）

●調査の日程と概要

- 5月24日～5月27日：木頭村、上那賀町、相生町、鷲敷町での聞き取り調査（庄武・吉成）

10月28日～10月30日：木頭村、相生町、鷲敷町、阿南市での調査（鎌田・長谷川・庄武・上月）

- ・河童を中心とする水辺にいと考えられてきた妖怪の伝承についての分布調査
- ・農業・生活用水、川漁、水遊び等、川とのつきあい方についての調査
- ・水への信仰、川辺での祭についての調査
- ・水系の景観と環境の変化についての調査

(3) 山岳霊場をめぐる宗教空間の調査—登拝ルートの復元を中心に—

平成6年度からの継続調査として実施した。昨年度未実施に終わった高越山周辺調査（登拝ルートの踏査、周辺石造物の確認・記録）のほか、県内外で資料調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：長谷川賢二（歴史）、庄武憲子（民俗）
館外調査者：大石雅章（鳴門教育大学助教授）

●調査の日程と概要

- 6月3日～5日：福島県立博物館企画展「福島の山岳信仰」関係資料の調査（長谷川）
- 9月11日～13日：東京大学史料編纂所調査（長谷川）
- 3月26日：高越山調査（長谷川・庄武・大石）
- 3月28日：県内補足調査および成果・課題の検討（長谷川・大石）
- ・福島県の修験関係資料所在調査
- ・醍醐寺文書における阿波関係史料・修験道関係史料の写真収集と検討
- ・若王子神社文書・住心院文書（東京大学史料編纂所架蔵影写本）の調査
- ・高越山表参道の踏査、周辺宗教施設および石造物の確認・記録
- ・関連各種資料・研究成果の収集と検討

3. 文部省科学研究費補助金による研究

●基盤研究(A)：景観システムの基礎的解析法の開発と標準化（平成7～8年度）

研究代表者：中越信和（広島大学総合科学部助教授）
当館の研究分担者：鎌田磨人

4. 他機関との共同研究

●(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助金による

共同研究：「流域環境変化が河道内樹木の長期的消長に及ぼす影響に関する調査・研究」(平成8～10年度)

研究代表者：岡部健士(徳島大学工学部助教授)

当館の研究分担者：鎌田磨人

●(財)味の素食の文化センター奨学助成金による共同研究：「カシュウイモの文化史—儀礼食で考える黒潮文化の流れ—」(平成8年度)

研究代表者：吉成直樹(高知大学教授)

当館の研究分担者：庄武憲子

●三重県大型化石発掘調査団による鳥羽市安楽島海岸での恐竜化石発掘調査への参加・協力

発掘調査団長：北川正恭(三重県知事)

当館の参加者：亀井節夫(顧問として)、両角芳郎・中尾賢一(調査員として)

5. 研究成果の公表

(1) 徳島県立博物館研究報告第6号

1996年9月15日発行、B5判137ページ、1,200部

(*は館外著者)

藤原道郎*・鎌田磨人・福田珠己*：フランスのエコミュージアム—ロゼール山・エコミュージアムとグランドランド・エコミュージアムの事例を中心として—。p. 1-38.

太田陽子*・鎌田磨人・岡部健士*：徳島県吉野川内の木本と土地利用型の分布—1964年および1990年のメッシュ図—。p. 39-72.

佐藤陽一：穴吹川(吉野川水系)の魚類相。p. 73-88.

井口利枝子*・井口光二*・佐藤陽一：徳島県内で発見されたニホンヤマネ *Glirulus japonicus*。p. 89-96.

奥村 清*・濱田美穂*：徳島市および鳴門市から産出した徳島平野地下の完新世貝類遺骸群集。p. 97-128.

大橋俊雄：作品紹介 左己紋蜻蛉蒔絵籠・打根 1腰。p. 129-137.

(2) 博物館ニュース "Culture Club" 欄記事

田辺 力：ヤスデの採集。No.23, p. 2-3.

魚島純一：銅鐸を科学する。No.24, p. 2-3.

中尾賢一：高知県安田町唐浜の鮮新世貝化石。No.25, p. 2-3.

高島芳弘：鳴門海峡にのぞむ漁業と製塩のムラー亀浦遺跡—。No.26, p. 2-3.

(3) 当館刊行物以外への掲載(*印は館外の研究者)
<動物>

佐藤陽一(1997.1) 事例紹介：徳島県下のメダカ生息調査。多自然研究(16):13.

Tanabe, T., K. Ishii* and Y. Wen-ying* (1996. 8) Two new xystodesmid millipeds from the Tianmu Mountains, Zhejiang Province, China. *Edaphologia* (57):13-19.

田辺 力(1996.9) ヤスデ類。石井 実ほか編「日本動物大百科8, 昆虫I」, 平凡社:38-39; 42-43.

Tanabe, T. and K. Shinohara* (1996.10) Revision of the Millipede genus *Xystodesmus*, with reference to the status of the tribe Xystodesmini (Diplopoda: Xystodesmidae). *Journal of Natural History*, 30:1459-1494.

<植物>

鎌田磨人・森本康滋*・西浦宏明*(1996. 3) 黒沢湿原の植生—その20年間の変化。黒沢湿原植物研究会編「黒沢湿原植物群落調査報告書」, 徳島県池田町教育委員会:49-74.

西浦宏明*・森本康滋*・鎌田磨人・山本久美*・山中三男*・石川慎吾*(1996. 3) 黒沢湿原とその周辺の植物相。黒沢湿原植物研究会編「黒沢湿原植物群落調査報告書」, 徳島県池田町教育委員会:1-8.

鎌田磨人・森本康滋*・石井愷義*・友成孟宏*・井内久利*(1996. 3) 北島町の公園における植栽樹種の特性。阿波学会編「総合学術調査報告, 北島町」(阿波学会紀要42号), 徳島県立図書館:15-24.

Kamada, M. and N. Nakagoshi* (1996. 5) Landscape structure and the disturbance regime at three rural regions in Hiroshima Prefecture, Japan. *Landscape Ecology*, 11:15-25.

Kamada, M., Y. Ohta* and T. Okabe* (1996. 6) Interrelation between tree distribution in river and environmental change of basin due to human activity. *Interpraevent 1996—Tagungspublikation*, 2:245-252.

Okabe, T.*, M. Kamada and M. Hayashi* (1996. 6) Ecological and hydraulic study on floodplain vegetation developed on a bar. *Interpraevent 1996—Tagungspublikation*, 1:235-244.

鎌田磨人(1996.10) 山間農村における山地利用と景観の構造。沼田 眞編「景相生態学—ランドスケープ・エコロジー入門」, 朝倉書店, 東京:86-93.

岡部健士*・鎌田磨人・小寺郁子*(1997. 3) 交互砂州上の植物群落分布とこれに及ぼす河状履歴の影響。水工学論文集, 41:373-378.

中越信和*・鎌田磨人・前河正昭*・石井正人*・池上佳志*・野村和信*(1997. 3) 景観要素の構成, 分布および動態。中越信和編「景観システムの基礎的

- 解析法の開発と標準化」, 文部省科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書: 26-29.
- 鎌田磨人・中越信和* (1997. 3) 四国地域における景観構造の解析と機能評価—地域生態系としての山間農村と河川について. 中越信和編「景観システムの基礎的解析法の開発と標準化」, 文部省科学研究費補助金基盤研究(A)研究成果報告書: 30-35.
- 小川 誠 (1996.11) 企画展「目で見る博物学」に寄せて. 徳島新聞11月1日朝刊.
- <地学>
- 亀井節夫・奥山茂美* (1996. 3) おわりに. 「古琵琶湖層群上野累層の足跡化石」, 服部川足跡化石調査団・三重県立博物館: 117-121.
- 亀井節夫 (1996. 7) 太古, 日本列島は「象の楽園」であった. 歴史街道, 7月号: 91-96.
- 亀井節夫 (1996. 9) 鳥羽市の大型恐竜化石調査に参加して. 徳島新聞9月18日夕刊.
- 亀井節夫 (1996. 9) 太古の世界との出会い. 産経新聞9月26日夕刊.
- 亀井節夫 (1996.11) 琵琶湖の生い立ち. 湖人(うみんど)—琵琶湖とくらしの物語, 琵琶湖博物館開館記念誌編集委員会: 23-27.
- 亀井節夫 (1996.12) 象と日本人—徳島での事例をもとに—. 徳島科学史雑誌 (15): 17-26.
- 亀井節夫 (1996.12) 私の化石遍歴より. 兵庫教育, 兵庫県教育委員会 (550): 1-3.
- 亀井節夫 (1997. 1) 恐竜のいる風景. 月間健康, 1月号: 26-27.
- 亀井節夫 (1997. 1) コペル君のこと(ホンとの出会い). 悠(はるか), 1月号: 102.
- 亀井節夫 (1997. 1) 恐竜と象の文化. あうろーら, 21世紀の関西を考える会 (6): 134-140.
- 亀井節夫 (1997. 2) 市民に支えられる博物館をめざして. 月刊ミュゼ, 21: 14-15.
- 亀井節夫 (1997. 3) 鳥羽市安楽島海岸で発掘された恐竜化石. 三重県鳥羽市産恐竜化石発掘調査中間報告書, 三重県大型化石発掘調査団: 20-26.
- 亀井節夫 (1997. 3) 大阪府富田林市石川足跡化石発掘調査報告書, 富田林市教育委員会.
- 亀井節夫 (1997. 3) 恐竜の時代へ旅する想像力. エム・キューブ(みえのくにづくり情報誌) (2): 3-8.
- 三重県大型化石発掘調査団(亀井節夫・両角芳郎・中尾賢一・ほか28名*) (1997. 2) 志摩半島の下部白亜系松尾層群から恐竜化石. 地質学雑誌, 103 (2): 口絵9-10.
- 両角芳郎 (1996. 3) 淡路島産アンモナイトの研究史. 南光重毅編著「淡路島の化石」, 洲本市立淡路文化

史料館: 72-77.

- 中尾賢一・橋本寿夫*・石田啓祐*・寺戸恒夫*・森永宏*・森江孝志*・福島浩三* (1996. 3) 吉野川平野の地下地質—北島町地域の沖積層—. 阿波学会編「総合学術調査報告, 北島町」(阿波学会紀要42号), 徳島県立図書館: 1-13.

<考古>

- 天羽利夫 (1997.1-3) 考古学から見る古代阿波12の謎. 徳島新聞朝刊1月15, 2月4日, 3月3日朝刊.

<歴史>

- 長谷川賢二 (1996. 8) 鳴門史学会研究大会に寄せて(下), 修験と地域社会. 徳島新聞8月23日朝刊.
- 長谷川賢二 (1997. 1) 地域史展示の課題. 史窓(27): 179-194.
- 長谷川賢二 (1997. 2) 四国における学芸員交流の試み. 月刊歴史手帖, 25(2): 20-25.
- 井上孝*・小林淳一*・長谷川賢二・宮前千雅子*・小島伸豊* (1997. 2) 座談会 博物館展示と人権. 部落解放 (416): 28-47.

<民俗>

- 庄武憲子・東田墨美*・岡島隆夫* (1996. 3) 北島町における地神信仰. 阿波学会編「総合学術調査報告, 北島町」(阿波学会紀要42号), 徳島県立図書館: 183-193.

<美術工芸>

- 大橋俊雄 (1996.12) 飯塚桃葉関係史料(続). 漆工史 19: 59-64.

(4) 学会・研究会等での発表 (*印は館外の研究者)

- 高橋弘明*・佐藤陽一・洲澤 譲* (1997. 3) オヤニラミを中心とした徳島県阿南市椿川水系の魚類. 第24回四国魚類研究会(高知).
- 田辺 力 (1996. 5) 地理的単位の探索: ヤスデにおける種の識別. 第19回日本土壌動物学会大会(富山).
- 田辺 力・片倉晴雄*・馬渡峻輔* (1997. 3) 薄板スプラインによるヤスデ類交尾器の地理的変異の解析. 第44回日本生態学会大会(札幌).
- 小川 誠 (1996. 5) キクタニギクの新産地. 四国植物研究会(琴南).
- 吉村輝美*・米澤義彦*・阿部政人*・小川 誠 (1996.11) 香川県小豆島に生育する野生ギクの細胞分類学的研究(予報). 第48回染色体学会(熊本).
- 小川 誠 (1997. 1) 徳島県立博物館の標本データベースを使った情報提供例. 日本博物館協会平成8年度指導者研究協議会(岩井).
- 小寺郁子*・林 雅隆*・岡部健士*・鎌田磨人 (1996. 5) 砂州上の植生と河状の相互関係(第2報).

- 平成8年度土木学会四国支部技術研究発表会(高知).
- 鎌田磨人*(1996.5) 宅地化が進行する地域の公園における植栽樹種の特性. 第40回日本生態学会中国四国地区大会(岡山).
- 岡部健士*・鎌田磨人・小寺郁子*(1996.5) 砂州上の植生と河状の相互関係. 第40回日本生態学会中国・四国地区大会(岡山).
- 鎌田磨人・藤原道郎*・福田珠己*(1996.7) 伝統的な農村緑地の保全手段としてのエコミュージアム. 第6回国際景観生態学会日本支部大会(福山).
- 鎌田磨人(1996.8) 徳島県吉野川の州上におけるヤナギの分布拡大とそのプロセス(予報). 溪畔林研究会第5回研究集会(川渡).
- Hong, S.-K.* and M. Kamada (1996.9) Pine forest as the important element of cultural landscape in Korea. 39th symposium of International Association for Vegetation Science; Vegetation Science and Landscape Ecology. (Lancaster, UK)
- 小寺郁子*・岡部健士*・鎌田磨人(1996.9) 砂州上の植生と河状の相互関係. 土木学会第51回年次学術講演会(名古屋).
- 中越信和*・鎌田磨人・石井正人*・池上佳志*・野村和信*(1997.2) 景観要素の構成, 分布及び動態. 文部省科学研究費補助金・基盤研究(A), 「景観システムの基礎的解析法の開発と標準化」研究報告会(大津).
- 岡部健士*・小寺郁子*・鎌田磨人(1997.3) 交互砂州上の植物群落分布とこれに及ぼす河状履歴の影響. 第41回水理講演会(東京).
- 鎌田磨人・長岡公治*・岡部健士*(1997.3) 吉野川の砂州上のヤナギが不連続な帯状に分布するのはなぜか. 第44回日本生態学会大会(札幌).
- 小寺郁子*・鎌田磨人・岡部健士*・上月康則*(1997.3) 一級河川・吉野川の砂州上における植物群落の分布と河状履歴. 第44回日本生態学会大会(札幌).
- Hong S.-K.* and M. Kamada (1997.3) Landscape structure and vegetation pattern of rural regions in Korea. 第44回日本生態学会大会(札幌).
- 鎌田磨人(1997.3) 日本における景観生態学の動向—イントロダクション. 第44回日本生態学会大会・自由集会「日本における景観生態学の動向」(札幌).
- 魚島純一(1996.6) X線透過撮影で確認された銅鐸のシワ状痕跡. 文化財保存修復学会(奈良).
- 魚島純一(1997.2) 徳島県立博物館における赤色顔料の調査. 保存科学研究集会(奈良).

- 魚島純一(1997.3) 阪神・淡路大震災によって被災した資料の真空凍結乾燥. 国立歴史民俗博物館研究会(千葉).
- 長谷川賢二(1996.8) 修験と地域社会. 1996年度鳴門史学会大会(徳島).
- 長谷川賢二(1996.9) 小杉温郁と『徴古雑抄』. 徳島中世史研究会(徳島).
- 長谷川賢二(1997.3) 熊野三山奉行考. 徳島地方史研究会例会(徳島).

6. 研究会・学会等の開催

●植物談話会

開催日：平成8年4月～9年3月までの毎月1回開催(土曜日の午後6時から)

会場：博物館実習室

参加者：毎回約15名

Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。徳島の自然や歴史・文化に関する資料は可能なかぎり網羅的に収集することはもちろん、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として四国や西日本の資料も収集していくことにしている。とくに自然の各分野については、日本の地史や生物相の形成に深い関係のある中国大陸や東南アジアをはじめ、海外まで目をむけた収集も必要になるだろう。

資料の収集は、購入・寄贈・採集・交換など、様々な方法で行っている。最近では、県民からの資料の寄贈も増えてきている。資料の購入には美術品等取得基金を当てている。

平成8年度は5名(人文2、自然3)の文化推進員・臨時補助員の補助を得て、資料の整理作業を進めた。

1. 購入資料

●動物

日本産淡水魚類標本(水野コレクション)	2,000点
東南アジアの蝶類標本(シジミチョウ科ほか)	5,450点
テナガゴガネほか甲虫類標本	145点
東南アジアの昆虫標本(ハチ・ハエ類ほか)	7,049点
東南アジア・中国の蝶	464点
旧北区の昆虫	2,131点

●植物

重訂本草綱目啓蒙	20冊
花彙	8冊
外来植物図譜	3冊
顕微鏡図譜	1冊
バクストンの植物雑誌	16冊
博物学の宝庫	2冊
ブラジル植物図譜	13冊

●地学

備北層群産食肉類臼歯化石(複製)	1点
ヨーロッパの下部白亜系産アンモナイト(複製)	1点
アフール猿人足跡化石(複製)	1点

●考古

三角縁神獸鏡 複製	3点
名東銅鐸 複製	1点

●歴史

土佐日記 複製	1帖
和名類聚抄	5冊
神変薩 役行者靈験記	2冊
修験道無常用集	2冊
天狗名義考	1冊
役行者御伝記図絵	1冊
陸軍食器他軍事関係資料	28点
豊臣秀吉朱印状	1点
象頭山參詣道紀州加田ヨリ讃岐廻并播磨名勝附	1点

●民俗

カンドリ舟用槽	1本
箱廻し用具一式	94点
藍染織品	31点

●美術工芸

月に芋図	1幅
諾冉二尊・松竹梅図(3幅対)	1件
松に旭・鶴図(双幅)	1点

2. 寄贈資料

●動物(脊椎動物)

ツグミ	1点	文化の森ビルメンテナンス
阿南市打樋川産魚類液浸標本	5点	高橋 弘明氏
ニホンザル剥製	1点	中川 昭彦氏
ヤマネ	1点	谷 正史氏
メダカ液浸標本	1点	鎌田 啓生氏
ベトナム産ニシン科魚類液浸標本	1点	平松 亘氏
ヤマネ	1点	佐藤 茂氏
芦田川産ほか魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏
神山町産ネズミ類	2点	野村 健司氏
シュレーゲルアオガエル	1点	真鍋 佳資氏
カワラヒワ	1点	原 道一氏
アオウミガメ	1点	村田清田朗氏
カワラヒワ	1点	原 道一氏
ハクセキレイ	1点	福井 修司氏
ニホンカモシカ骨格	1点	野張 晃生氏
オオダイガハラサンショウウオ	1点	松本 義明氏
ジュウイチ	1点	吉田 和人氏
キセキレイ	1点	原 道一氏
徳島県産鳥類	多数	曾良 寛武氏
ツバメ	1点	長尾 碩修氏
高知県浦ノ内湾流入河川魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏

徳島県産カメ類	多数	矢部 隆氏
徳島県産淡水魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏
園瀬川産ナガレホトケドジョウほか魚類液浸標本	2点	市原 慎一氏
ツシマサンショウウオ	1点	吉田 雅隆氏
タワヤモリ	1点	倉田 由紀氏
ヤマネ	1点	猪俣 栄一氏
ミンククジラひげ	1点	香川県自然科学館
伊予灘産魚類液浸標本	多数	清水 孝昭氏
日本産淡水魚類液浸標本	多数	高橋 弘明氏
アオジ	1点	原 道一氏
ハシボンガラス	1点	今村 高広氏
櫛木川産ほか魚類液浸標本	3点	高橋 弘明氏
ニホンカモシカ	1点	谷 正史氏
タヌキ	1点	二宮 章氏
ミヤコテングハギ	1点	横川 浩治氏

●動物（無脊椎動物）

シオマネキおよびハクセンシオマネキ	38点	田島 正子氏
徳島県産淡水甲殻類	515点	浜野 龍夫氏

●植物

植物さく葉標本	4,000点	高藤 茂氏
植物さく葉標本	1,000点	里見 信生氏
植物さく葉標本	10点	赤澤 時之氏
植物さく葉標本	10点	片山 泰雄氏
植物さく葉標本	9点	宮内 一馬氏
植物さく葉標本	2点	三谷 進氏

●地学

火山灰	1点	森江 孝志氏
ボーリングコアおよび報告書	24点	(株) 拓 研
珪化木	1点	山本 巖氏
勝浦川流域下部白亜系産化石	300点	板東 一郎氏
ペグマタイトにともなう鉱物	7点	博 石 館
中国雲南省産岩石・鉱物標本	80点	雲南省政府・徳島雲南交流協会
阿南市大井町の鍾乳洞産獣骨	10点	板東一郎氏・徳島県化石同好会

●歴史

修験道・巡礼関係資料	一括	光永 武利氏
焼夷弾破片	11点	徳島県教育委員会
徳島大空襲遺物	66点	徳島市公園緑地課
シベリア抑留資料	8点	河野 幸雄氏
旧日本陸軍天幕・ナイフ	2点	本田 幸二氏
旧日本陸軍砲弾他	3点	西條 晃正氏
旧徳島航空隊竣工式記念盃他	4点	福原 健生氏
旧日本陸軍飯盒	1点	吉本 氏
旧日本陸軍軍用ランプ	1点	福井 修司氏

旧日本陸軍軍服他	5点	佐藤 治氏
徳島大空襲遺物	64点	坂田カズエ氏
葵家紋付龍文図象嵌火縄銃	1点	(株)セイヤ 牛尾良照氏

3. 寄託資料

●考古

田村谷銅鐸	1点	田村藤太郎氏
曲り銅鐸	1点	松浦 菊雄氏
安都真銅鐸	1点	高橋 浪子氏
左右山銅剣	2点	神山 町 長
縄文土器ほか	5点	青木 幾男氏
ガラス製水注	1点	祖谷 宝物館

●歴史

一石五輪塔	1点	宮の内地区(総代 赤井美久氏)
-------	----	-----------------

●美術工芸

飯塚桃葉筆 朝暎曳馬図	1点
守住貫魚筆 風景図・花卉図	4面
守住貫魚筆 布袋図ほか	5点
中山勝哲筆 猿猴図ほか	2点

4. 資料の貸し出し

●動物

トウヨシノボリ液浸標本	5点	高橋弘明氏 (西日本科学技術研究所)
ウキゴリ属魚類液浸標本	7点	高橋弘明氏 (西日本科学技術研究所)
エソ科魚類液浸標本	4点	花崎勝司氏 (近畿大学)
シロチチブ液浸標本	3点	波戸岡清峰氏 (大阪市立自然史博物館)

●地学

エディアカラ動物群化石 (レプリカ)	2点	ラピス大歩危 石の博物館
中国雲南省産岩石・鉱物標本	20点	徳島雲南交流協会

●考古

田村谷銅鐸	1点	安都真1号銅鐸	1点	国立歴史民俗博物館ほか
前山遺跡出土埴輪・須恵器	18点	小松島市立図書館		
阿波国関係木簡 (複製)	1点	徳島市教育委員会		

●歴史

細川成之画像 (複製)	1点	徳島市立德島城博物館
全国水平社創立大会綱領・宣言 (複製) ほか	2点	

「水平社歴史館」建設委員会

●民俗

天狗久人形頭（写真）ほか 18点

(社)農山漁村文化協会

●美術工芸

守住貫魚肖像ほか 44件 徳島市立徳島城博物館

白糸威胴丸具足唐兜付 1点 高松市歴史資料館

千鳥蒔絵鞍ほか 4点 徳島市立徳島城博物館

5. 特筆すべき資料の受入と整理

●日本産淡水魚類標本（水野コレクション）

ハゼ科の淡水魚ヨシノボリ類の研究および河川生態学で著名な愛媛大学名誉教授・水野信彦博士が多年の研究活動で採集した魚類液浸標本のコレクションで、日本全国の主要な河川から得られた標本からなる。博士が新種記載したカワヨシノボリとイシドジョウの模式標本も含まれている。8年度末に受け入れ、順次整理・登録作業を進めていくことにしている。

コレクションはロット数で2,000点に及ぶので、実際にはこの4～5倍の登録件数になる見込みである。

●中国雲南省産岩石・鉱物標本

この資料は、徳島雲南交流協会を通じて雲南省政府より徳島県に寄贈されたものである。7月16日に標本が到着し、8月6日に県への贈呈式が行われた。標本は雲南省地鉱局が収集して取りそろえたもので、雲南各地の岩石・鉱物、雲南で豊富に産出する各種金属の鉱石などから成る。全体としてみると、典型的な標本・

美しい標本というよりは、鉱石のサンプルとしての意味合いが大きい標本群と見ることができる。標本の整理・登録はすでに終了している。

これらの一部は、折から開催中だった当館の企画展「鉱物の世界」で展示したほか、徳島雲南交流協会が開催した「中国雲南省と徳島の交流展」にも貸し出した。

●植物さく葉標本（高藤コレクション）

高藤 茂氏は徳島市在住の植物愛好家で、徳島市のタシロランなど県内の稀産植物を数多く発見された方である。同氏が収集した約4,000点の植物さく葉標本の寄贈の申し出をうけ、平成9年1月17日に受け入れを行った。8年度は450点の標本の整理を終えた。

6. 館蔵資料数

平成8年3月末日現在の分野別収蔵資料数は下表のとおり。

7. 資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と特別委員

●分野別収蔵資料数（平成9年3月31日現在）

分野	点数	内 訳			
		実 物	レプリカ	模型・模写	文 献
動物（脊椎）	12,266	12,205	55	5	1
（無脊椎）	25,310	25,252	0	58	0
（昆虫）	91,789	91,542	0	2	245
植 物	176,152	175,810	56	5	281
地 学	4,042	3,982	58	2	0
考 古	857	721	72	5	59
歴 史	4,788	4,169	22	4	593
民 族	3,903	3,893	5	5	0
美 術 工 芸	4,938	4,934	0	4	0
合 計	324,045	322,508	268	90	1,179

●博物館資料収集委員会委員（常任委員）

（◎委員長、○副委員長）

氏名	役職（専門分野）
生野 勇	日本美術刀剣保存協会評議員 （美術工芸）
石井 恒義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田 啓祐	徳島大学総合科学部助教授（地学）
○高橋 啓	鳴門教育大学学校教育学部教授 （歴史）
◎湯浅 良幸	徳島史学会会長（民俗）

（3名以内）から構成されており、特別委員は購入資料に応じて特に必要がある場合に、その都度委嘱される。

8年度は、7月5日に第7回委員会を開催し、2件の人文資料の購入を諮問した。また、平成9年2月4日に第8回委員会を開催し、人文資料1件・自然史資料2件の購入を諮問した。

8. 文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究にはもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかる上で不可欠である。当館では、人文・自然史分野の専門書や学会誌のほか、徳島県を中心とした地方史誌類や普及教育用図書も収集している。また、内外の博物館等の研究報告・年報・展示解説書等も交換により収集している。

●購入図書冊数（データベース登録数）

8,840冊（平成8年度分 506冊）

●購入雑誌

自然史系（30タイトル）：生物科学、科学、日経サイエンス、海洋と生物、月刊海洋、遺伝、プランタ、月刊むし、昆虫と自然、地学雑誌、月刊地球、インセクタリアム、SCIAS, American Journal of Botany, Cladistics, Entomology Abstracts, Episodes, Evolution, Geology, Journal of Evolutionary Biology, Journal of Paleontology, Nature, Oikos, Paleobiology, Plant Systematics and Evolution, Science, Systematic Botany, The American Naturalist, Trends in Ecology and Evol., Zoological Journal of Linnean Society

人文系（36タイトル）：美術研究、美術史、佛教芸術、地方史研究、地理、芸術新潮、芸能史研究、月刊考古学ジャーナル、月刊文化財、月刊文化財発掘出土

情報、月間歴史手帖、季刊考古学、考古学と自然科学、古文化財の科学、古代文化、古代学研究、国華、古文書研究、考古学研究、考古学雑誌、九州考古学、民族学研究、日本の美術、日本美術工芸、日本民俗学、日本歴史、日本史研究、歴史学研究、歴史評論、歴史と地理、歴史地理学、史林、史学雑誌、信濃、Folklore, Journal of American Folklore

●当館刊行物の定期発送先（平成9年3月末現在）

博物館ニュース		1,595ヶ所
博物館年報		432ヶ所
研究報告	国内	479ヶ所
	国外	210ヶ所
展示解説		206ヶ所
企画展図録	自然	88ヶ所
	人文	184ヶ所

9. 資料データベースシステム

平成6年度末から新システムでの運用が始まった。8年度は、システム改善として、バックアップの安定化を図るためのバックアップ専用端末の購入、端末で使用する実用的かつ使用頻度が高い市販のグラフィック関係ソフトの追加購入などが行われた。

(1) 改善項目

●新規に購入されたバックアップ専用端末

・Apple Power Macintosh 8500/180（内蔵ハードディスク2.0GB、64M RAM）及び17インチディスプレイ
この端末は、コンピューター作業室に設置した。

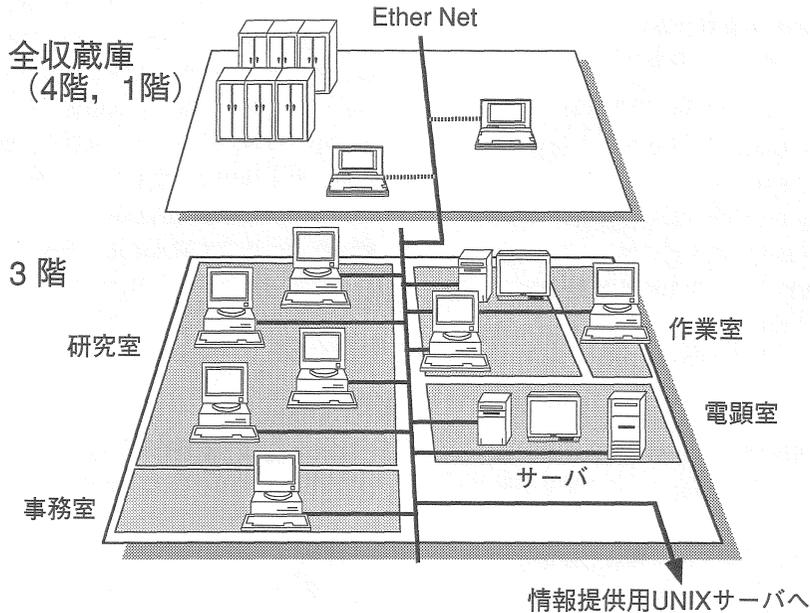
●新規に購入された市販ソフト

Adobe Photoshop 4.0 J	2本
Adobe Page Maker 6.0 J	1本
Omni Page Pro V.7.0	1本
Adobe Page Mill 2.0 J	1本

(2) システムの構成

●博物館のハード構成

・部門サーバ1台：Apple Power Macintosh 8100/80（内蔵ハードディスク1G、48M RAM）およびQuaDrive（230MOドライブ+1Gハードディスク）
・業務用端末 6台：Apple Power Macintosh 7100/70（内蔵ハードディスク500M、32M RAM）のうち、3台にはQuaDrive（230MOドライブ+1Gハードディスク）が付属。
・業務用移動端末 2台：Apple Power Book 540 C（内蔵ハードディスク320M、16M RAM）



・周辺装置

スキャナー 1 台：EPSON 9500 Art (透過原稿ユニット付き)

PolaScan (フィルムスキャナー) 1 台

デジタルカメラ 1 台 など。

端末機は全て Ethernet 上につながり、LAN の配線は各研究室 (研究室には各学芸員の机まで)・作業室・収蔵庫まで行われている。収蔵庫内の作業には Power Book 540 C を利用することとし、デスクトップ型は設置されていない。

●博物館独自のハード構成

システム更改でのハード構成は、基本的には前システムのマシン台数と同じという制限があり、博物館では部門サーバを人文・自然各 1 台で分けて管理したいという希望がかなえられなかった。そのため、博物館では独自に備品として以下のものを追加し、博物館全体のシステムを構成している。

- ・ワークグループサーバ 1 台：Apple Workgroup Server 9150 (内蔵ハードディスク 2G、48 M RAM) および QuaDrive (230MOドライブ+1Gハードディスク)

博物館では、これをデータサーバ機とすることにし、システム側から配分された部門サーバ機をアプリケーションサーバ機として使用している。

- ・Apple Power Macintosh 8100/80 1 台 (内蔵ハードディスク 540 M、48 M RAM) および QuaDrive (230 MO ドライブ+1 G ハードディスク) 1 台
- 本機はQuadra 840 AV のアップグレード機であるが、

作業スペースに置いてデータ登録や画像関係の作業などに使用している。

- ・Apple Power Macintosh 9500/132 1 台 (内蔵ハードディスク 2G、98 M RAM)

本機は作業スペースに置いて主に画像関係の作業などに使用するため、7 年度に博物館独自のシステムに追加した。

●データベース用ソフト

図書館と博物館を除く 3 館は、業務用データベースの構築には 4th Dimension を用いることにしたが、博物館では運用の柔軟性を考え、自然史は FileMakerPro. 2.1 を、人文は Panorama II を使い、各分野ごとに入力フォーマットを決めている。

(3) 運用状況

●資料登録

資料の登録は、各分野の担当学芸員がそれぞれの分野ごとの入力フォーマットを利用して行っている。入力されたデータは博物館データサーバに保存され、システム管理者によって毎日深夜に 8 mm テープにバックアップされている。

●一般への資料情報の提供

情報提供用には、各館の部門サーバから統合サーバ (UNIX ワークステーション) へテキストおよび画像を送り、システム管理者側で編集したものを提供するという仕様となっている。資料管理データのうち、情報提供する項目のテキストデータおよび画像情報を統合サーバへ送るためのフォルダーに入れておけば、夜の

うちに自動的に情報提供用の統合サーバにデータが転送される。

提供する情報は、博物館の資料データベースでは視覚的に興味を引きそうなものが少ないので、生物系では産地情報を地図(徳島県および四国のみ)上にプロットとして表示することを行っている。

10. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料および借用した資料は、原則としてすべて、収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

●減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受け入れのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130cm×よこ120cm×奥行140cm(約2.3 m^3)で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成8年度は9回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

●常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入れることができない大型の資料は、一時保管庫(24時間空調)に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は、床面積20 m^2 ×高さ3m(約60 m^3)である。常圧燻蒸庫での燻蒸は、文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成8年度は、収蔵庫の全室密閉燻蒸時に大型資料を収蔵庫に搬入して燻蒸したため、常圧燻蒸庫での燻蒸は実施しなかった。

●収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにもなって、害虫やカビなど資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して収蔵庫の全室密閉燻蒸を行うことにしている。

平成8年度は、歴史民俗収蔵庫、特別収蔵庫1、特別収蔵庫2、馴化室、生物収蔵庫、考古収蔵庫および一時保管庫のガス(臭化メチルと酸化エチレンの混合ガス)による全室密閉燻蒸と、地学収蔵庫の薬剤散布による害虫駆除を行った。次回は11年度に実施する予定である。

Ⅳ 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接対話できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成8年度は、年間62回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきており、参加者も徳島市内とその近郊在住者から郡部へと広がりがつつあるが、広報の方法を考慮し、郡部の参加者をもっと増やしたい。実施回数としては最大限であろうと思われるので、今後は、参加者の反応を十分把握しつつ、内容の充実を図っていかねばならない。

1. 普及行事

■体験学習

昔の人の生活に関係のある体験を通じて、ものの性質や当時の人々の生活の知恵を学ぶシリーズ。

7月21日(日)	火おこし	41人
10月20日(日)	土器づくり①(成形)	40人
11月24日(日)	土器づくり②(焼成)	38人

■歴史散歩

県内の主な遺跡、建造物、町並みなどをめぐり見学するシリーズとして実施している。

5月26日(日)	古墳見学	37人
10月13日(日)	徳島城めぐり	33人
12月15日(日)	眉山北麓を歩こう	30人

■野外自然かんさつ

野外にでかけ、季節に応じた動植物の観察や地質見学を行っている。8年度は文化の森や眉山周辺のほかに、勝浦町、鳴門市、県南、市場町～阿波町などで実施した。

4月14日(日)	春の植物と昆虫	39人
5月19日(日)	立川谷の地質見学	29人
6月2日(日)	磯のいきもの(鳴門)	80人
7月14日(日)	夏の植物と昆虫	39人
7月27日(日)	水生昆虫のかんさつ	42人

9月14日(土)	鳴く虫のかんさつ	45人
9月29日(日)	河口のいきもの	40人
10月27日(日)	秋の植物と昆虫	31人
11月10日(日)	那賀川の植物かんさつ	33人
11月17日(日)	土柱周辺の地質見学	17人
2月16日(日)	冬の植物と昆虫	31人
3月9日(日)	町中の岩石と化石	32人

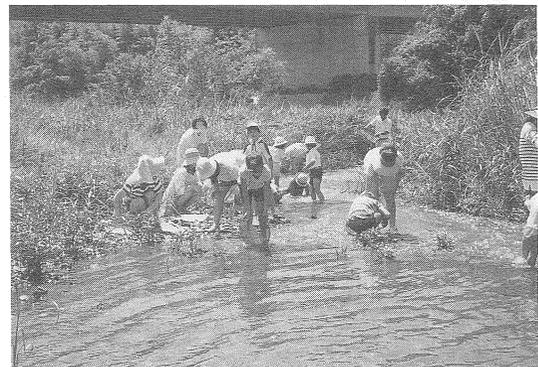
■土曜講座

毎月第2土曜日の午後2時から1時間ほど、学芸員が各自の研究テーマ周辺の話題について話をする講座で、申し込み不要・定員先着50名で実施している。

4月13日(土)	生きもののくらし	22人
5月11日(土)	中央構造線のはなし	47人
6月8日(土)	画人守住貫魚	29人
7月13日(土)	アメリカ軍資料からみた徳島大空襲	51人
8月10日(土)	鉱物のはなし	36人
9月14日(土)	遺物から何がわかるか	33人
10月12日(土)	魚のすみよい川づくり	17人
11月9日(土)	黒沢湿原の変遷	22人
12月14日(土)	古代の船	18人



体験学習「土器づくり(成形)」



野外自然かんさつ「水生昆虫のかんさつ」

1月11日(土)	ハエのはなし	15人
2月8日(土)	電子情報で自然をさぐる—インター ネットとパソコン通信の世界—	29人
3月8日(土)	芋のはなし	22人

■ミュージアムトーク

テーマにそって数回のシリーズで話をする講座で、「続・中世の生活誌—『徒然草』を手がかりに—」と「徳島のむかしばなし」の2テーマで行った。

10月26日(土)	続・中世の生活誌—「徒然草」を手がかりに①	26人
11月30日(土)	「徒然草」を手がかりに②	22人
12月21日(土)	「徒然草」を手がかりに③	17人
1月25日(土)	徳島のむかしばなし①	16人
2月22日(土)	徳島のむかしばなし②	12人
3月22日(土)	徳島のむかしばなし③	8人

■標本の作り方・名前の調べかた

採集した動植物を標本にするのはどのようにしたらよいか、名前を調べるにはどんな点に注意して観察したらよいかを学ぶ講習会。

「標本の名前を調べる会」は毎年8月下旬の恒例の行事で、学芸員のほか10名の外部講師の応援を得て行った。単に名前を教えるだけにならないよう、いっしょに調べる姿勢で取り組むように留意している。

6月8日(土)	淡水魚調査法講座①採集・標本の作り方	14人
6月9日(日)	淡水魚調査法講座②名前の調べかた	14人
8月11日(日)	植物標本の作り方・名前の調べかた	18人
8月18日(日)	かんたんな貝の標本の作り方	49人
8月27日(火)	標本の名前を調べる会	35人
8月28日(水)	標本の名前を調べる会	73人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察・講習会。内容に応じて、実体顕微鏡、電子顕微鏡、蛍光X線分析装置、赤外線テレビカメラ等の機器も併用して観察を行っている。

8月4日(日)	セミのぬけがらさがし	32人
9月8日(日)	美術品の扱い方	13人
10月6日(日)	岩石薄片標本のつくり方	12人
12月1日(日)	レプリカづくり①(型どり)	30人
12月8日(日)	レプリカづくり②(色つけ)	26人
1月12日(日)	拓本をとろう①(拓本のとり方)	27人
1月26日(日)	ミクロの世界	22人
2月2日(日)	落ち葉の中の生きものたち	30人

2月9日(日)	拓本をとろう②(裏打ちのしかた)	26人
3月16日(日)	文化財をのぞいてみよう	6人

■企画展開連行事

企画展開催中に、次の記念講演会、解説講座および展示解説を行った。解説講座と展示解説は主として当館学芸員が講師となって実施した。

●企画展「銅鐸の美」記念講演会 4月28日(日)

会場：21世紀館イベントホール
講師：佐原 真氏（国立歴史民俗博物館副館長）
演題：「銅鐸の絵と子どもの絵—銅鐸絵画の謎に迫る—」
参加者：246人

●企画展「銅鐸の美」展示解説

4月2日(火) この日は午前・午後の2回、特に記念講演会講師の佐原 真氏に展示解説していただいた。参加者140人
5月5日(日) 参加者70人
5月12日(日) 参加者70人

●企画展「銅鐸の美」解説講座

4月7日(日) 「銅鐸のうつりかわり」 参加者42人
4月14日(日) 「銅鐸のまつり」 参加者51人
4月21日(日) 「銅鐸のつくりかた」 参加者43人

●企画展「目でみる博物館」展示解説

11月3日(日) 参加者30人

■その他の普及行事

●博物館一日館長 11月3日(日)

開館記念日の話題づくりの一環として、博物館・博物館友の会・徳島県博物館協議会の共催で実施した。源 純夏さん（県立城南高校2年生、アトランタオリンピック競泳出場）に一日館長をお願いし、「一日館長の常設展巡回」および「亀井館長とのトークコーナー」を行った。

参加者：50人

●考古学調査報告会 3月23日(日)

8年度に博物館職員が関係した考古学調査の概要を紹介するため、21世紀館イベントホールで報告会を開催した。

講師および演題：

天羽利夫（副館長）

「名西郡石井町前山古墳群の測量調査」

魚島純一（学芸員）「蛍光X線分析でみた銅鐸」

高島芳弘（主任学芸員）

「塩と漁業の村・鳴門市亀浦遺跡」

北条ゆうこ（文化推進員）

「阿波の注連縄文茶碗」

参加者：131人

2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記す（内容に依頼者が表現されている場合は依頼者を省略）。これらも広義の普及教育活動につながるとの観点から、業務に支障のない限り依頼を受け入れることにしている。

- 4月2日 高島芳弘 NHKテレビ「イブニングネットワークとくしま」出演（企画展「銅鐸の美」の紹介）
- 5月10日 天羽利夫 石井町中央公民館で講演「邪馬台国時代の徳島」
- 5月25日 亀井節夫 日本科学史学会第43回年会・総会／徳島科学史研究会年会で講演「象と日本人」
- 6月20日 亀井節夫 野尻湖博物館開設20周年記念講演会で講演「野尻湖のオオツノシカとナウマンゾウ」
- 6月21日 佐藤陽一 県環境監視課「海辺の教室」（鳴門東小学校）で講演「徳島の魚たち」
- 7月1日 小川 誠 野外活動リーダー養成セミナー講師（徳島県青少年センター）
- 7月1日 山川浩實 NHKテレビ「ほっとチャンネルとくしま」出演（徳島大空襲）
- 7月8日 長谷川賢二 県立城東高等学校職員同和教育研修会で講演「部落史の諸問題をめぐって」
- 7月23日 佐藤陽一 美馬郡小教理科部会夏期研究会で講演「徳島の魚たち」
- 8月6日 魚島純一 文書資料保存研修会講師（徳島県立文書館）
- 8月13日 山川浩實 NHKテレビ「ほっとチャンネルとくしま」出演（終戦特集）
- 8月21日 山川浩實 NHKテレビ「ほっとチャンネルとくしま」出演（戦後の暮らし）
- 8月24日 中尾賢一 NHKテレビ「おはよう四国」出演（企画展「鉾物の世界」の紹介）
- 9月17日 亀井節夫 徳島県シルバー大学校特別講座で講演「太古の世界をさぐる」
- 9月20日 天羽利夫 徳島市中央公民館で講演「鳥居龍藏の見た中国」
- 10月9日 亀井節夫 国立療養所東徳島病院看護部で講演「生命の歴史」
- 11月26日 小川 誠 NHKテレビ「おはよう四国」出演（企画展「目でみる博物学」の紹介）

- 11月2日 天羽利夫 徳島県立文書館歴史講座で講演「古代の阿波」
- 11月11日 小川 誠 NHKテレビ「ほっとチャンネルとくしま」出演（企画展「目でみる博物学」の紹介）
- 11月17日 亀井節夫 豊橋市自然史博物館で講演「日本にゾウがいたころ」
- 11月20日 長谷川賢二 徳島県高等学校同和教育研究会中部支部研修会「部落の成立について」助言者
- 12月 日 亀井節夫 徳島市立入田小学校環境教育に関する授業講師
- 12月24日 天羽利夫 FM眉山出演（「博物館あれこれ」）
- 1月18日 亀井節夫 徳島看護協会鳴島支部で講演「生命の歴史」
- 3月10日 中尾賢一 四国放送テレビ「おはようとくしま」出演（普及行事「町中の岩石と化石」の紹介）

3. 博物館実習生の受け入れ

平成8年度は、8月26～30日に博物館実習生の受け入れを行った。実習生は15人（男7人、女8人）で、大学別の内訳は次のとおりである。

四国大	5人	神戸学院大	1人
徳島大	1人	神戸女子大	1人
徳島文理大	3人	関西学院大	1人
都留文科大	1人	奈良女子大	1人
愛知学院大	1人		

カリキュラムは別表のとおりで、指導の都合上、少人数のグループに分割した時間帯もある。各学芸員と普及係職員が指導にあたり、資料の整理、調査などについての実習を行った。

4. 博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、催し物案内ポスター、企画展ポスター等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動をPRしている。月間行事案内については、県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供を行っている。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先（県内）

小学校	263ヶ所
中学校	96

●8年度博物館実習カリキュラム

月/日	午前 (9:30~12:00)		午後 (13:00~16:00)		(16:00~16:30)
8/26 (月)	オリエンテーション (長谷川)	全員	民俗資料の整理 (庄武)	A	ノート記入 全員
	施設概要説明・見学 (長谷川)	全員	普及行事・展示の企画 (田辺)	B・C	
8/27 (火)	図書資料の整理 (大原・高島)	A・C2	博物館と保存科学 (魚島)	A・C2	ノート記入 全員
	魚類の採集・標本作成 (佐藤)	B	魚類の採集・標本作成 (佐藤)	B	
	「標本の名前を調べる会」補助 (大原)	C1	「標本の名前を調べる会」補助 (大原)	C1	
8/28 (水)	美術資料の取り扱い方・調査法 (大橋)	A・C	考古資料の整理 (高島)	A・C	ノート記入 全員
	「標本の名前を調べる会」補助 (大原)	B	「標本の名前を調べる会」補助 (大原)	B	
8/29 (木)	企画展「鉱物の世界」について (中尾)	全員	歴史資料の整理 (山川)	A・C2	ノート記入 全員
			昆虫の採集・標本作成 (大原)	B	
			地学標本の整理 (両角)	C1	
8/30 (金)	植物標本の作成 (小川)	全員	普及教育活動について (福島・木津)	全員	ノート記入 全員

高等学校・その他学校	64
学会・同好会等	13
県および県教育委員会各課・機関	112
市町村教育委員会	51
公民館・隣保館	206
市町村および大学図書館	26
博物館施設	37
宿泊施設	31
報道関係機関等	35

- 平成8年度美馬郡小学校教育研究会理科部会夏季研修会 7月23日(火)
講義：「徳島県の魚類について」(佐藤陽一)
「徳島県の昆虫について」(大原賢二)
- 平成8年度初任者研修講座(徳島市教育委員会) 8月7日(水)
講義：「博物館について」(亀井節夫)
「常設展示研修と教育普及事業について」(福島秀樹)

●平成8年度資料提供

- 6月26日 企画展「鉱物の世界」の開催について
- 7月23日 夏休み期間中の博物館の催し物について
- 7月25日 部門展示室の展示替えについて
- 9月13日 企画展「目でみる博物学」の開催について
- 1月22日 「考古学調査報告会」の開催について
- 3月3日 木造漁船の屋外展示について
- 3月18日 企画展「阿波の近世絵画―画壇をささえた御用絵師たち―」の開催について

以上のほか、美術品等取得基金によって8月末・11月末・3月末に購入した資料の内容についての資料提供を行った。

5. 学校教育との連携

学習指導要領により学校教育の中で博物館の活用を図ることが明記されたにも関わらず、毎年学校からの利用者が減少している。そのため、まず博物館の利用の方法を認識してもらうために「博物館見学ノート」を各学校に配布するとともに、企画展の前には県内の学校へ直接出かけていき、PR活動を行った。

また、徳島県教育委員会等からの依頼により、次のような教員対象の研修会を当館で実施し、当館職員が指導に当たった。

6. 博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。博物館館内に事務局をおいている。

- 会員 (平成8年度末)
個人会員 (年会費2,000円) 93人
家族会員 (年会費3,000円) 93組・382人

- 役員 (平成8年度)
会 長：寺戸恒夫
副会長：亀井節夫 (博物館長)・近藤康男
幹 事：和田賢次・田淵武樹・石原 侑
吉村博子・真貝宣光・徳山 豊
監 査：柏野寿一・川下浩子

●事業

- ①博物館出版物の増刷・頒布
博物館発行の企画展図録、展示解説第1集・第2集 (博物館へいこう)、博物館見学ノート等の増刷・頒布を行った。

②広報活動

8年度会員に対し、博物館ニュース、企画展ちらし、月間行事案内、年間催し物案内などを送付した。

また、昨年度は「友の会だより」準備号として発行してきた会報を、正式に友の会会報「アフォーミュラム」としてA4判で発行することになり、No. 1～3を発行し会員に送付した。

③企画展説明会

企画展「銅鐸の美」、「鉱物の世界」、「目でみる博物学」の開催にともない、それぞれの期間中に会員を対象として説明会を行った。

④野外活動等

会員を対象とした行事を6回実施した。

○徳島城博物館見学

日 時：7月28日(日) 9時30分～12時

場 所：徳島城博物館

参加者：27名

○セミの分布調査

日 時：8月25日(日) 10時～12時

場 所：文化の森総合公園

参加者：8名

○吉野川ハゼ釣り大会

日 時：10月13日(日) 13時～16時

場 所：吉野川河川敷グラウンド

参加者：13名

○石器づくり

日 時：11月10日(日) 10時30分～16時

場 所：那賀川の河原

参加者：9名

○漂着物さがし

日 時：11月17日(日) 10時30分～16時

場 所：県南の海岸

参加者：9名

○室戸半島の地質見学(貸し切りバス使用)

日 時：2月23日(日) 8時30分～17時30分

場 所：宍喰町～室戸半島

参加者：42名

平成8年度には次の4号を発行した。

●No.23 (1996年7月1日発行) 6,000部

Culture Club ヤスデの採集

館蔵品紹介 阿波国徳島城之図

企画展 鉱物の世界

情報ボックス 徳島自動車道の工事と中央構造線の露頭

レファレンスQ&A 谷田蒔絵とはどのようなものですか

●No.24 (1996年9月1日発行) 6,000部

Culture Club 銅鐸を科学する

博物館紹介 フランスのグランドランド・エコミュージアム

企画展 目でみる博物学

速報! 珍しい小さな前方後円墳の発見

レファレンスQ&A クワガタムシやカブトムシの飼い方を教えて下さい

●No.25 (1996年12月1日発行) 6,000部

Culture Club 高知県安芸町唐浜の鮮新世貝化石

博物館紹介 琵琶湖博物館

歴史散歩 石造物との語らいー身近な史跡を歩いてみよう

速報! 18年ぶりに生息が確認されたスナヤツメ

レファレンスQ&A お正月に門松を立てるのはなぜですか?

●No.26 (1997年3月25日発行) 6,000部

Culture Club 鳴門海峡にのぞむ漁業と製塩のムラ

野外博物館 山にすむドジョウーナガレホトケドジョウー

企画展 阿波の近世絵画ー画壇をささえた御用絵師たちー

速報! 出雲・加茂岩倉遺跡から大量の銅鐸出土

レファレンスQ&A 溪流沿い植物ってなんですか?

7. 普及教育関係出版物

■博物館ニュース

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する"Culture Club"、館蔵品紹介、野外博物館、企画展案内、情報ボックス、レファレンスQ&A、普及行事の案内と記録などから構成されている。

編集は博物館ニュース担当者がMacintoshを使って行っている。文章やページ割り付け、イラストなどは電子化してファイルで印刷業者に渡す。現在のところB5判、8ページ(全ページカラー)で印刷している。

■その他

●博物館催し物案内

1年間の普及行事予定をポスター(B2判)およびB4判4つ折のリーフレットとして印刷している。博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間行事案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB4一枚のビラ。報道関係機関等に配

徳島県立博物館の催しもの

◆土曜講座

- ◆お茶のいけいけ 6月11日
- ◆中央図書館のいけい 9月11日
- ◆鶴人守生賞 6月9日
- ◆アガヒ源流ゆかりの徳島入道 7月13日
- ◆お茶のいけい 9月16日
- ◆お茶から何がわかるか 9月14日
- ◆魚のすまよい川づくり 10月12日
- ◆徳島県立図書館 11月9日
- ◆お茶のいけい 12月14日
- ◆八乙女 1月11日
- ◆電子書籍で自然をいけい 2月8日
- ◆インターネットとパソコン 3月8日

平成27年度



◆標本の作り方・名前のおぼえ

- ◆淡水魚標本法講座 6月8日
- ◆淡水魚標本法講座 6月9日
- ◆標本の作り方・名前のおぼえ 6月11日
- ◆お茶のいけい 6月11日
- ◆標本の名前をいけい 6月27日
- ◆標本の名前をいけい 6月28日

◆館内実習

- ◆お茶のいけい 6月4日
- ◆お茶のいけい 9月3日
- ◆お茶のいけい 10月6日
- ◆お茶のいけい 12月1日
- ◆お茶のいけい 11月8日
- ◆お茶のいけい 1月12日
- ◆お茶のいけい 1月25日
- ◆お茶のいけい 2月2日
- ◆お茶のいけい 2月9日
- ◆お茶のいけい 3月16日

◆野外自然かんさつ

- ◆お茶のいけい 4月14日
- ◆お茶のいけい 5月19日
- ◆お茶のいけい 6月2日
- ◆お茶のいけい 7月14日
- ◆お茶のいけい 7月27日
- ◆お茶のいけい 9月14日
- ◆お茶のいけい 9月29日
- ◆お茶のいけい 10月27日
- ◆お茶のいけい 11月17日
- ◆お茶のいけい 2月16日
- ◆お茶のいけい 3月9日



◆企画展

- ◆「お茶のいけい」 4月2日〜5月12日
- ◆お茶のいけい 4月2日
- ◆お茶のいけい 4月7日
- ◆お茶のいけい 4月14日
- ◆お茶のいけい 4月21日
- ◆お茶のいけい 4月28日
- ◆お茶のいけい 5月5日
- ◆お茶のいけい 5月12日
- ◆お茶のいけい 7月11日〜9月11日
- ◆お茶のいけい 10月1日〜12月1日
- ◆お茶のいけい 11月3日

◆ミュージアムトーク

- ◆お茶のいけい 1月11日
- ◆お茶のいけい 11月30日
- ◆お茶のいけい 12月21日
- ◆お茶のいけい 1月25日
- ◆お茶のいけい 2月22日
- ◆お茶のいけい 3月22日



◆歴史散歩

- ◆お茶のいけい 5月14日
- ◆お茶のいけい 10月13日
- ◆お茶のいけい 12月13日

◆体験学習

- ◆お茶のいけい 7月21日
- ◆お茶のいけい 10月20日
- ◆お茶のいけい 11月24日

＜お申し込み・お問い合わせ先＞

徳島県立博物館

〒770 徳島市八万町向山
TEL. 0866-68-3636

＜お申し込み方法＞

※申込は必ず行前まで、参加費発生(申込料)の場合は事前に、自然と環境センターまでお申し込みください。

※本講座は、先着順となります(申込の人数を超過する場合は、自然と環境センターまでお申し込みください)。

※お申し込み後、必ずお申し込みの住所に案内状が送付されます。

布するほか、来館者にも提供している。

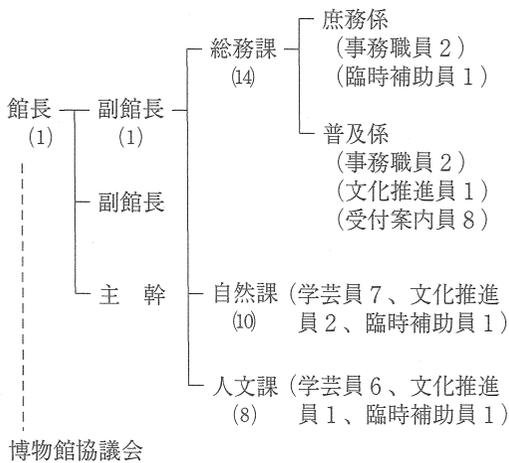
●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した小冊子。年度初めに県内各学校に送付している。

V 管理運営

1. 組織・職員

(1) 組織図 (平成9年4月1日現在)



(2) 職員名簿 (平成9年4月1日現在)

館長 亀井 節夫
副館長 日下 武久
副館長 (自然課長兼務) 両角 芳郎
主幹 (総務課長兼務) 米益 麻夫

<総務課>

総務課長 (庶務係長兼務) 米益 麻夫
主査 山口都志江
普及係長 木津 正憲
主事 結城 孝典
文化推進員 須賀 尚子
臨時補助員 和泉 恵子
受付案内員 砂山 亜紀
〃 川中 由佳
〃 富士谷美香
〃 美鳥 恵子
〃 福田 純子

〃 松村 祐美
〃 黒川真理子
〃 浅川真理子

<自然課>

自然課長 両角 芳郎 (地学)
主任学芸員 大原 賢二 (動物)
〃 佐藤 陽一 (〃)
〃 小川 誠 (植物)
〃 田辺 力 (動物)
〃 鎌田 磨人 (植物)
学芸員 中尾 賢一 (地学)
文化推進員 赤田 瑞江
〃 岩佐 春香
臨時補助員 武市 和恵

<人文課>

人文課長 山川 浩實 (歴史)
主任学芸員 高島 芳弘 (考古)
学芸員 大橋 俊雄 (美術工芸)
〃 魚島 純一 (考古・保存科学)
〃 長谷川賢二 (歴史)
〃 庄武 憲子 (民俗)
文化推進員 北條ゆうこ
臨時補助員 坂東登紀子

(3) 人事異動 (平成9年4月1日付、カッコ内は前職)

転出：天羽利夫 (副館長)、文化財課主幹へ
〃：田村 実 (総務課長)、徳島農林事務所総務課長へ
〃：福島秀樹 (普及係長)、徳島北高等学校教諭へ
転入：米益麻夫・主幹 (城東高校事務課長)
〃：結城孝典・主事 (阿波高等学校教諭)
昇格：両角芳郎・副館長 (自然課長)
〃：木津正憲・普及係長 (主事)
〃：小川 誠・主任学芸員 (学芸員)
〃：田辺 力・主任学芸員 (学芸員)
〃：鎌田磨人・主任学芸員 (学芸員)

(4) 平成8年度非常勤・臨時職員

- 館長 (非常勤特別職)
亀井 節夫 (平成4.4.1～)
- 文化推進員 (非常勤特別職)
赤田 瑞江 (平成7.4.1～)
伊澤美千子 (平成8.4.1～9.3.31)
岩佐 春香 (平成8.4.1～)
北條ゆうこ (平成8.4.1～)
- 臨時補助員
篠原 未幸 (平成8.4.1～9.3.31)

●平成8年度博物館費（2月現計予算額） （単位：千円）

科目	予算額計	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報酬	32,171	32,171				
賃金	6,653	6,653				
報償費	1,255		325	350	440	140
旅費	11,827	3,823	2,600	4,263	1,002	139
需要費	30,314	3,962	12,870	4,899	6,331	2,252
役務費	12,866	2,686	6,452	633	2,200	895
委託料	8,358		3,626		4,732	
借損	1,195	755		200		240
備品費	50,476	2,838	711	1,436	*45,491	
負担金	14,170	75	14,030	65		
計	169,285	52,963	40,614	11,846	60,196	3,666

註）*のうちには、資料購入費39,991千円を含む。

谷口 宏子（平成8.4.1～9.3.31）
寺田佳余子（平成8.4.1～9.3.31）

●徳島県立博物館協議会委員名簿 （平成9年3月31日現在）

●受付案内員（非常勤特別職）

吉原 真琴（平成6.4.1～9.3.31）
藤井香代子（平成6.4.1～8.6.16）
砂山 亜紀（平成7.4.1～ ）
川中 由佳（平成7.10.1～ ）
富士谷美香（平成7.10.1～ ）
美鳥 恵子（平成7.10.1～ ）
谷脇 充代（平成8.4.1～8.9.16）
小谷 紀子（平成8.4.1～9.3.31）
後藤二三代（平成8.6.25～9.3.31）
福田 純子（平成8.10.1～ ）

区分	氏名	役職等
学校教育	岩佐 幸昌	県小学校理科教育研究会会長 北島小学校校長
	湯藤 章皓	県中学校社会科教育研究会会長 池田第一中学校校長
	梅枝 紘一	県高等学校社会科学会会長 小松島高等学校校長
社会教育	福原 健生	徳島市立徳島城博物館長
	富士貴志夫 （会長）	徳島県生涯学習推進会議委員 鳴門教育大学教授
	加茂 重良	徳島市立動物園長
学職経験者	岡田 一郎	徳島県文化財保護審議会委員 海南町教育委員会教育長
	寺戸 恒夫 （副会長）	徳島文理大学教授
	野田 良子	徳島県文化財保護審議会委員 四国大学教授
	石井 愷義	徳島大学総合科学部助教授

2. 予算

2月現計予算額（2月補正後の予算額）を上表に示す。

3. 博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

8年度は協議会を1回開催した。

●8年度博物館協議会

日時：平成8年8月6日（金） 10時30分～12時
会場：博物館講座室

議事：平成7年度決算及び事業報告
平成8年度予算及び事業概要
その他

4. 四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部

四国地区博物館協議会及び日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在86館(園)が加盟している。四国地区の会長(支部長)を担当する館が2年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成8、9年度の2年間は愛媛県立美術館が幹事館をつとめる。

平成8年度の役員会及び総会は次のとおり高松で開催された。

日時：平成8年5月30日(木)～31日(金)

会場：にぎたつ会館

議事：平成7年度事業報告並びに決算報告について
役員改選について

平成8年度予算及び事業計画について

その他

5. 徳島県博物館協議会

徳島県内の博物館施設が相互協力して博物館活動の振興をはかるため、徳島県博物館協議会が平成8年2月27日に設立された。加盟館は31館(平成9年3月末現在)で、当館に事務局が置かれている。

●役員(平成9年3月末現在)

会長	徳島県立博物館長	亀井 節夫
副会長	恰美術館理事長	恰 文雄
副会長	徳島市立動物園長	加茂 重良
理事	相生森林美術館長	仁木 正
理事	徳島市立徳島城博物館長	福原 健生
理事	徳島県立近代美術館長	三木 多聞
監事	日和佐うみがめ博物館長	栗林健二郎
監事	鳴門市ドイツ館長	古林 庸策

●平成8年度事業

①加盟館園の組織・職員と展示概要、主な収蔵資料リストの作成

アンケート調査を行い、回収した資料を取りまとめて加盟館園に配布した。

②役員会の開催

日時：10月30日(水) 14時～16時

場所：徳島県立博物館応接室

議事：8年度事業の経過報告

今後の事業計画

博物館利用に関する要望書について

③研修会の開催

日時：11月27日(水) 10時～15時

場所：徳島県立博物館講座室

内容：講演(亀井会長)

「これからの博物館のあり方・社会的役割」

新設館紹介(ラピス大歩危 石の博物館)

実践報告(相生森林美術館)

討議「移動博物館や共同企画事業等について」

④徳島県博物館マップの作成準備

県内の博物館施設を広く紹介するため、「徳島県博物館マップ」を作成することになり、3名のマップ作成推進委員と事務局とで準備作業を行った(出版は9年度の予定)。

⑤博物館施設の利用に関する要望書の提出

博物館施設を学校教育の一環として積極的に活用する措置をとっていただくよう、3月18日に会長・副会長が県教育長を訪ねて要望を行った。

6. 各種委員・非常勤講師等の受諾

平成8年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

亀井節夫(館長)

日本博物館協会評議員(平成8年6月～)

徳島県美郷村蜚の里基本構想委員会委員

(平成8年9月～)

財団法人大塚美術財団評議員(平成8.6.2.～)

滋賀県甲西町博物館建設審議会会長

(平成8.4.1.～9.3.31.)

滋賀県多賀町文化施設建設準備委員会委員

(平成8年7月～9年3月)

三重県センター博物館(仮称)資料評価委員

(平成8.6.12～9.3.31)

三重県センター博物館(仮称)建設相談員

(平成8.5.7～9.3.31)

三重県大型化石発掘調査団顧問(平成8年8月～)

熊本県立博物館基本計画策定委員

(平成8年8月～10年3月)

長野県野尻湖発掘調査団顧問(昭和60年～)

長野県北御牧村ステゴドン発掘調査団顧問

(平成5年～)

国際第四紀学術連合(INQUA)アジア・太平洋層序委員会委員(1966～)

QUATARPALEONTOLOGIE 編集顧問(1975～)

MODERN GEOLOGY 編集委員(1985～)

天羽利夫

徳島大学総合科学部非常勤講師(平成8.4.1～9.3.31)

- 日本放送協会四国地方放送番組審議会委員
(平成5.11.1～)
- 鳴門市塩業資料館建設推進検討委員会委員
(平成8.4.1～)
- 両角芳郎
徳島大学総合科学部非常勤講師(平成8.4.1～9.3.31)
三重県大型化石発掘調査団調査員
(平成8.8.26～9.3.31)
福井県立恐竜博物館(仮称)展示企画ワーキンググループ委員(平成8.10.30～9.3.31)
- 山川浩實
松茂町歴史民俗資料館運営協議会委員
(平成8.4.1～9.3.31)
- 大原賢二
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
昆虫類分科会委員(平成8年4月～10年度)
- 佐藤陽一
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
委員・淡水魚類分科会委員(座長)
(平成8年4月～12年度)
徳島県土木部河川課河川懇談会「未来への碧き流れー
新町川を語る会」委員(平成7～8年度)
- 小川 誠
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
維管束植物分科会委員(平成8年4月～12年度)
- 田辺 力
徳島県版レッドデータブック掲載種選定作業委員会
委員・その他の無脊椎動物分科会委員(座長)
(平成8年4月～12年度)
- 長谷川賢二
徳島県同和問題啓発をすすめる会専門委員
(平成8.4.1～9.3.31)
徳島県同和地区民俗文化史調査委員
(平成8.8.1～9.3.31)
- 魚島純一
四国大学非常勤講師(平成8.4.1～8.10.10)
- 中尾賢一
三重県大型化石発掘調査団調査員
(平成8.8.26～9.3.31)
- 6.18 沖縄県教育次長他2名
- 6.19 福岡県総務部国立博物館対策室一行3名
- 8.23 大阪人権博物館学芸員吉村智博氏ほか1名
- 8.25 勝浦郡勝浦町化石研究会10名
- 8.30 茨城県自然博物館学芸員小池 涉氏
- 9.10 大阪人権博物館理事大津 譲氏
- 9.12 沖縄県観光文化局一行10名
- 9.19 沖縄県教育庁文化課文化財係長千木良芳範氏
ほか9名
- 9.28 国際交流基金中学・高校教育視察団一行27名
- 10.8 静岡県企画部企画課主査寺田成人氏ほか1名
- 10.9 都道府県指定都市教育研究所長協議会一行35名
- 11.1 日本私立大学協会四国支部加盟大学理事長及
び学長等一行40名
- 11.8 中国・四国・九州地区初任者研修等研究協議
会一行90名
- 11.9 新居浜市立郷土美術館協議会委員一行8名
- 12.3 鳥取市教育委員会博物館建設課課長小杉宗雄
氏ほか4名
- 12.10 秋田県立博物館主任学芸員池田憲和氏ほか2名
- 1.29 和歌山市立博物館協議会会長小池洋一氏ほか
2名
- 2.18 鹿児島県立博物館学芸指導員2名
- 2.25 福井県立博物館主任学芸員東 洋一氏ほか3
名
- 2.25 滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員高橋啓一氏
ほか1名
- 2.26 国立歴史民俗博物館資料課長補佐柳沢久男氏
ほか1名
- 2.28 群馬県立歴史博物館教育普及課長本田 功氏
- 3.6 平成8年度中四国地区公立文化施設協議会第
3回幹事会一行20名
- 3.6 福山市人権平和資料館副館長井上孝氏、部落
解放同盟広島県連東部地区協割石忠典氏
- 3.13 奈良公園管理事務所管理係長米田敏行氏ほか
2名
- 3.13 埼玉県立博物館常設展示課若松良一氏ほか1名

8. 観覧者

平成8年度常設展及び企画展観覧者数、年度別累計は別表のとおり。

7. 視察等博物館関係来訪者

- 4.17 沖縄県教育委員会文化課長ほか5名
- 4.23 林原自然科学博物館準備室室長石井健一氏ほ
か4名
- 6.6 姫路市女性社会課一行160名

●平成8年度常設展観覧者数

月	開館日数	有 料 観 覧 者									有 料 観覧者 計
		個 人			団 体 (割引20%)			減 免 (割引50%)			
		一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	
4	25	1,328	103	620	2	0	0	174	0	0	2,227
5	27	965	54	268	117	27	0	160	0	2	1,593
6	26	1,256	50	474	205	0	0	110	0	1	2,096
7	26	1,052	66	547	74	0	0	104	0	0	1,843
8	27	2,665	254	1,672	84	1	14	217	2	2	4,911
9	25	988	56	249	70	0	0	143	0	0	1,506
10	27	996	57	259	116	0	10	291	1	0	1,730
11	26	764	34	201	133	0	0	332	0	0	1,464
12	23	621	42	222	20	0	10	36	0	1	952
1	23	742	53	179	5	16	0	57	0	1	1,053
2	24	878	63	212	0	0	0	88	0	0	1,241
3	26	1,039	90	423	65	0	62	131	0	8	1,818
計	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,843	3	15	22,434

●常設展観覧者数累計 (平成2～8年度)

年 度	開館日数	有 料 観 覧 者									有 料 観覧者 計
		個 人			団 体 (割引20%)			減 免 (割引50%)			
		一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	一 般	高校・ 大学生	小・中 学生	
平2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722
平3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	10,028	19	53	99,282
平4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,928	48	13	57,861
平5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943
平6	299	20,640	1,712	8,149	1,807	159	330	2,549	5	18	35,369
平7	300	19,950	1,353	7,556	867	220	217	2,882	3	0	33,048
平8	305	13,294	922	5,326	891	44	96	1,843	3	15	22,434
累計	1,922	220,886	18,685	80,960	23,041	1,215	4,451	36,134	137	150	385,659

(単位：人)

無 料 観 覧 者													観覧者 総 数
学 校 教 育										その他	無 料 観覧者 計		
幼・保育		小学校		中学校		高 校		計				第2・4土 無料入館	
園	人 数	校	人 数	校	人 数	校	人 数	校	人 数	校	人 数		無 料入館
0	0	3	531	4	497	1	142	8	1,170	247	1,557	2,974	5,201
6	415	36	4,112	4	1,029	1	102	47	5,658	196	6,097	11,951	13,544
2	151	3	223	3	193	0	0	8	567	139	470	1,176	3,272
0	0	2	50	1	17	1	17	4	84	32	852	968	2,811
1	127	0	0	1	12	0	0	2	139	0	1,232	1,371	6,282
1	135	0	0	0	0	0	0	1	135	180	3,033	3,348	4,854
1	45	28	2,637	5	1,032	2	190	36	3,904	164	964	5,032	6,762
3	74	7	519	0	0	2	325	12	918	86	2,183	3,187	4,651
2	58	2	42	0	0	0	0	4	100	57	543	700	1,652
1	169	0	0	0	0	0	0	1	169	72	917	1,158	2,211
3	41	0	0	0	0	0	0	3	41	108	1,074	1,223	2,464
10	573	0	0	0	0	0	0	10	573	109	917	1,599	3,417
30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121

(単位：人)

無 料 観 覧 者													観覧者 総 数
学 校 教 育										その他	無 料 観覧者 計		
幼・保育		小学校		中学校		高 校		計				第2・4土 無料入館	
園	人 数	校	人 数	校	人 数	校	人 数	校	人 数	校	人 数		無 料入館
		55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
		202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
		114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
5	293	118	12,204	22	2,939	6	832	151	16,268	1,398	2,871	20,537	69,480
38	2,547	90	7,980	22	3,246	9	730	159	14,503	1,195	1,080	16,778	52,147
27	1,542	99	8,641	20	3,311	4	253	150	13,747	2,083	7,493	23,325	56,373
30	1,788	81	8,114	18	2,780	7	776	136	13,458	1,390	19,839	34,687	57,121
100	6,170	759	78,762	155	23,585	73	10,311	1,087	118,828	7,469	36,692	162,989	548,648

●平成8年度企画展観覧者数

(単位：人)

企画展名	開催期間	開催日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
			個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
銅鐸の美	8.4.2 ～8.5.12	36	2,199	362	528	2	0	843	515	27	0	4,476	1,524	6,000
鉱物の世界	8.7.19 ～8.9.1	39	3,631	432	1,908	24	0	0	381	5	1	6,382	981	7,363
目でみる博物学	8.10.18 ～8.12.1	39	1,214	75	245	2	37	487	222	1	0	2,283	455	2,738
計		114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101

●企画展観覧者数累計(平成3～8年度)

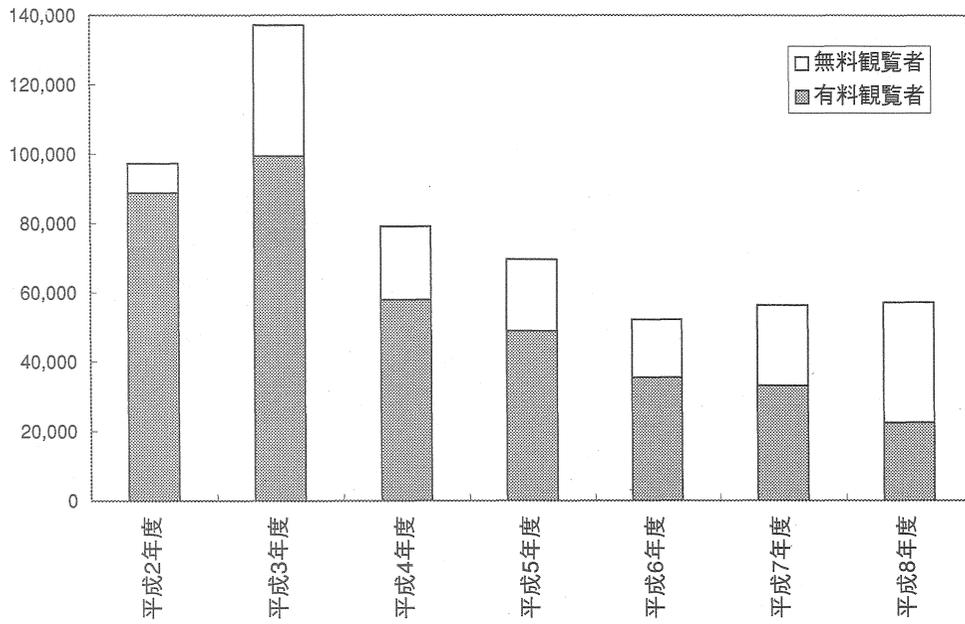
(単位：人)

年度	開館日数	有料観覧者									無料観覧者	観覧者総数	
		個人			団体(割引20%)			減免(割引50%)					有料観覧者計
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
平成6年度	112	7,593	708	1,060	222	0	277	1,300	0	6	11,166	8,592	19,758
平成7年度	94	8,432	769	4,374	83	10	744	917	0	3	15,332	17,213	32,545
平成8年度	114	7,044	869	2,681	28	37	1,330	1,118	33	1	13,141	2,960	16,101
累計	630	59,929	5,341	23,242	1,488	159	3,555	8,194	55	17	101,980	32,928	134,908

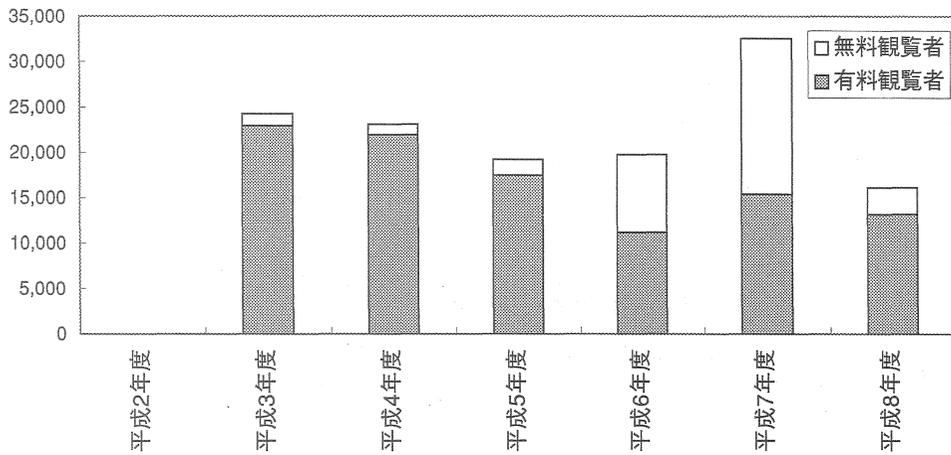
●特別陳列観覧者数累計(平成4～8年度)

展示会名	開催期間	開催日数	観覧者総数
第1回館藏品展	平5.2.16 ～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	平6.2.1 ～2.27	23	4,090
掘ったでよ阿波	平7.1.13 ～2.5	21	3,165
第2回収藏品展	平8.2.16 ～3.17	27	5,358
累計		100	19,325

●常設展観覧者数（平成2～8年度）



●企画展観覧者数（平成3～8年度）



徳島県立博物館年報 第6号 (平成8年度)

平成9年(1997)6月30日 発行

編集・発行：徳島県立博物館

〒770 徳島市八万町向寺山

(文化の森総合公園内)

TEL (0886) 68-3636 FAX (0886) 68-7197

印 刷：(株)教育出版センター
